

授業科目等の概要												
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 1年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モダリスト）を目指す。											
分類 種別	必修	○	選択	配当年次	1年	学期	通年	○	前期	後期		
授業科目	総論				授業方法	講義	△	演習	△	実習	○	△
担当教員	服飾造形論 I 大古場 真由美				授業時間数	前期	15	後期	15	計	30	
※実務家教員	○ アパレルメーカーでの実務経験で培った知識を伝授する。職業訓練指導員の資格を活かし効率よく技術を教える。また、国家資格技能検定、婦人子供服製造技能士1級で取得した技術を活かし、基礎能力を高め、身につける。											
資格検定												
授業概要	衣服制作において必要な用具の使用方法や縫製用具の基礎知識を身につける。また、人体の構造を把握し衣服制作するに当たり必要な計測の仕方を学ぶ。さらには衣服制作において必要な素材の扱い方や付属材料、裁断縫製に関する知識を身につける。											
学習成果	① 衣服制作で重要な用具の種類と使用方法の知識を習得。 ② 仕様・工程を把握し服作りの知識を高める。 ③ 布と糸の関係や縫製用具を理解する事で基礎知識を理解する。 ※ 合理的な縫製技術を学ぶ。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)				1	定期試験結果	90	%	2	提出物/期限遵守	%
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④ ●KFDオリジナルプリント配布 ●ボディ・ボディライン・ソーイングセット											

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	衣服制作のための人体計測・用具と名称、及び使用方法の理解	衣服を制作するのに必要な最小限度の人体寸法を計測する力をつける。人体の各ポイントを把握し、理解を深める。また、衣服製する用具の基礎知識の習得。
2	3-4	ミシン・アイロン・特殊ミシンの基礎知識・針と糸の種類と用途及び布地の関係	ミシン・アイロン・特殊ミシンの手入れ方法や糸のかけ方、糸調子等の基礎知識を学ぶ。美しく仕上げる為に、布地にあった適切な針と糸を選ぶ事が出来る。
3	5-6	裁断・縫製の基礎知識 エプロン、キュロットスカートの仕様・縫製工程表	布地の特性や扱い方を理解し、裁断技術を知る。ソーイングで製作するエプロンとキュロットスカートの仕様を知る。工程表と、縫製仕様書を理解する。
4	7-8	副資材について・マーキング・柄合わせ・ワンピースの仕様	衣服制作をするにあたり重要な副資材の役割と目的に応じた選定についての理解を深める。無駄無く生地の用尺を見積もりする事ができる。ソーイングで制作するワンピースの仕様を知る。
5	9-10	セミタイトスカートについて 裁断加工・縫製仕様・工程表	ソーイングで制作するセミタイトスカートの仕様を知る。また、下半身を覆う衣服の構造と人体の構造線に合わせたシルエットの理解、及び仕立てを学ぶ。
6	11-12	シャツブラウスについて・台衿付きシャツカラー（半袖シャツ）裁断加工・縫製仕様・工程表	シャツブラウスの仕様を知る。また、上半身を覆う衣服の構造と人体の構造線に合わせたシルエットの理解、及び仕立てを学ぶ。部分縫いで制作する台衿付きシャツカラーの縫製や構造を理解する。
7	13-14	ボディラインを入れる・トワルの基礎知識・原型補正について	ボディにガイドラインを入れる。人体を観察し立体的な構造を理解する。平直裁断や立体裁断で使用される布の特徴を理解し、布目を見分けられる力を養う。
8	15	まとめ	前題・服飾造形の基礎知識の復習とまとめ。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期授業計画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは準備学習
1	1-2	ウール素材の扱い方・芯地の種類と用途、目的と役割	ウール素材の特性を理解し知識を深める。衣類のシルエットや表情、着やすさを左右する芯地についての、役割と取り扱い方法を学ぶ。
2	3-4	重衣料のマーキング・柄合わせ・一重JKの芯貼り加工・縫製仕様・工程表	重衣料を制作するにあたり、布地を購入する。無駄無く見積もりができるようになる。使用量を把握する。ウール素材の裁断方法を知る。一重JKの加工・裁断から縫製までの一連の流れを学ぶ。
3	5-6	裏地の種類と用途、目的と役割・タイトスカートの仮縫い・補正について	裏地の必要性の理解を深め、種類を知る。また、縫製上の取り扱い方法も学ぶ。タイトスカートにおける、個人形状矯正、操作方法を学ぶ。
4	7-8	裏付きタイトスカートの布地加工・裁断・芯貼りについて	裏付きタイトスカートで使用する、表地・裏地・芯地の縫製上の取り扱い方を学ぶ。制作工程における加工・裁断方法を学ぶ。
5	9-10	裏付きJKの布地加工・裁断・芯貼りについて	裏付きJKで使用する、表地・裏地・芯地の縫製上の取り扱い方を学ぶ。制作工程における加工・裁断方法を学ぶ。
6	11-12	スーツ企画書（規格サイズ・副資材・加工・裁断・芯貼り・指示書）	裏付きスーツを制作し企画書としてまとめる。企画書を作成する事でこれまで学んだ事を見直し、復習が出来る。
7	13-14	スーツ企画書（マーキング・縫製・仕様・工程表）	裏付きスーツを制作し企画書としてまとめる。企画書を作成する事でこれまで学んだ事を見直し、復習が出来る。
8	15	スーツ企画書・まとめ	裏付きスーツを制作し企画書としてまとめる。企画書を作成する事でこれまで学んだ事を見直し、復習が出来る。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)			

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程	ファッションデザイン専攻科	1年
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。		
分類	必修	<input checked="" type="radio"/>	選択
種別	総論	授業方法	講義 <input checked="" type="radio"/>
授業科目	ファッション史	授業時間数	前期 10 後期
担当教員	溝口 希弥子	職業実践専門課程：企業との連携	
※実務家教員			
資格検定		必修	選択

授業概要 ファッションはそれぞれの時代の政治・経済・文化と密接に関連しているという事を、「服装の歴史」を中心に理解を深める。衣服の起源から、古代・中世・近代・現代までの流れを理解することで、「繰り返す歴史」のありようを理解し、ファッションが私たちの生活にどのように影響を与えていたのか考える。また次代のファッションを形作るのは自分たちである、という認識を持てるようにしたい。

学習成果	① 歴史を知る楽しさや意義を感じてもらう。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%
	② ファッションは繰り返す、という流れを理解する。		2	提出物/期限遵守	80	%
	③ 自分の興味ある分野への知識を広げてもらう。		3	独創性/習熟度	10	%
	※ ファッションを創り上げる基礎となる服装史の流れを理解する。		4	意欲・授業態度	10	%
使用教材	●文化ファッション大系 肩飾造形講座① ●KFDオリジナルプリント配布 ●文化学園服飾博物館刊 ヨーロピアンモード					

前期授業計画(4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	導入、古代（エジプト・ローマ・ギリシャ）、中世（ビザンティン・ゴシック・ルネサンス）	服装史の発展、服の役割、変遷の概要を理解する。
2	3-4	近世（18-19世紀市民革命と産業革命）、第1～第2帝政時代	政治、経済、文化が密接につながっていることを実感させる。
3	5-6	現代（1900～1910年代）	今のファッションにつながる20世紀の流れを理解する。
4	7-8	現代（1920～1950年代）	今のファッションにつながる20世紀の流れを理解する。
5	9-10	現代（1960～1990年代）と総論、まとめテスト実施	これから自分たちが生み出していくファッションの源泉を理解する。
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程		ファッションデザイン専攻科		1年
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。				
分類	必修	<input checked="" type="radio"/>	選択	配当年次	1 年
種別	総論			授業方法	講義 <input checked="" type="radio"/>
授業科目	アパレル商品知識			授業時間数	前期 15 後期
担当教員	松延 直明			職業実践専門課程：企業との連携	
※実務家教員					
資格検定	一般財団法人 日本ファッション教育振興協会主催：ファッション販売能力検定3級				
授業概要	ファッション販売能力検定3級の商品知識を中心にファッションアイテムの知識を身に付ける。シルエット、ディテール、名称などの基本知識だけではなく、そのアイテムが生まれた時代背景などの関連知識から学ぶことでより造詣を深め、企画、販売などアパレルのどの分野においても通用するアイテム知識を習得する。				
学習成果	① 基本アイテムの知識習得。 ② ディテールの知識習得。 ③ サイズ表記（JIS規格）の知識習得。 ※ 衣服のデザイン知識とサイズ知識（JIS規格）の習得。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1 定期試験結果 2 提出物/期限遵守 3 独創性/習熟度 4 意欲・授業態度	70 % % % 30 %	
使用教材	●一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：ファッション販売3 ●KFDオリジナルプリント配布				

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	商品分類とサイズ知識	基本的商品分類を理解し、JIS規格をもとにしたサイズ表記の読み取りができるように進める。
2	3-4	スカートの知識、パンツの知識	主にボトムスに関するアイテム名と丈の名稱といった基礎知識を基本的デザインをメインとして理解する。
3	5-6	シャツブラウスの知識、カラーの知識	シャツの基本アイテム名とディテール名を理解しつつ、カラーの種類も基本デザインを中心として理解する。
4	7-8	ワンピースの知識、シルエットの知識	ワンピースのアイテム名を押さえつつ、シルエットを理解することでデザイン面においても必要な知識を得る。
5	9-10	カット&ソーンの知識、インナーウェアの知識	カット&ソーンとインナーウェアの特殊性を理解する。
6	11-12	ニットウェア、ネックラインの知識	ニットウェアの特殊性を理解し、またそれにつながるディテールとしてネックラインの種類を理解する。
7	13-14	ジャケットの知識、コートの知識	アウターに関する知識をジャケット・コートと合わせて理解する。デザインだけではなく機能性についても触れる。
8	15	服飾雑貨知識	靴、バッグ、アクセサリーといったアバラン小物の知識を取り入れる。基本的なものに絞り、売り場における知識として役立てる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)	各学生が授業ごとにアイテムサンプルを持参し、手元でアイテムサンプルを見ながら授業を受ける形が望ましい。		

授業科目等の概要																											
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 1年																										
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。																										
分類	必修	○	選択		配当年次	1年	学期	通年		前期	○																
種別	総論					授業方法	講義	○	演習	△	実習																
授業科目	アパレル素材 I					授業時間数	前期	15	後期		計 15																
担当教員	大古場 真由美					職業実践専門課程：企業との連携																					
※実務家教員	○	アパレルメーカーでの実務経験で培った知識を伝授する。職業訓練指導員の資格を活かし効率よく技術を教える。また、国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級で取得した技術を活かし、基礎能力を高め、身につけさせる。																									
資格検定																											
授業概要	アパレル製品の企画、デザイン、縫製、販売に必要不可欠な知識である「テキスタイル」。1年次はその基礎知識として、繊維や糸からテキスタイルが出来るまで、ファッション動向を把握し、製品管理や取り扱いに至るまでを幅広く学ぶ。そして実際に取り扱う素材を用いて、テキスタイルへの理解を深め、手に取ったテキスタイルの素材名、組成、風合いなどをマスターし、そこから各分野（企画、デザイン、縫製、販売）に必要な判断が出来るようになることを目標とする。																										
学習成果	① 繊維の種類について理解する。 ② 織り、編み、加工について理解する。 ③ 繊維取り扱い表示記号について理解する。 ※ テキスタイルの使い方を提案できるスキルの習得。			成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果	80	%	2	提出物/期限遵守	%															
使用教材	●服地の基本がわかるテキスタイル事典 ●KFDオリジナルプリント配布																										

前期授業計画(4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習	
1	1-2	アパレル素材とは、繊維とは、繊維の種類（天然繊維）		
2	3-4	繊維の種類（化学繊維）		
3	5-6	糸とは布地とは（織物）		
4	7-8	布地とは（編み物、加工、レース、網地、ネット）素材感性（風合い）		
5	9-10	柄		
6	11-12	布地（加工）ステンシル加工		
7	13-14	洗濯表示、染み抜き、ドライクリーニング、繊維取り扱い表示記号		
8	15	アパレル素材論・まとめ		
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
その他 (授業に際しての注意点)				

学 科		服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 1年									
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。										
分 類	必修	○	選択		配当年次	1 年	学 期	通年	○	前期	
種 別	総論				授業方法	講義	○	演習	△	実習	
授業科目	デザイン基礎				授業時間数	前期	30	後期	30	計	60
担当教員	今村 大祐				職業実践専門課程：企業との連携						
※実務家教員	○	今村：アパレル企業の営業企画での実務経験及び国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級取得にて培ってきた、実務性の高い服飾造形に関する知識を教授する。									
資格検定							必修		選択		
授業概要	視覚伝達としてのコミュニケーション・デザイン。生産デザインとしてのプロダクト・デザイン。環境・空間デザインとしてのスペース・エンバイラメント・デザイン。それらを通して私たちの生活にどれだけ多くのデザインが浸透しているかを知り、五感を使いアイデア発想のソースを探すこととする。後期では基本的な図形から発想した平面デザイン、移調の考え方をベースにした配色構成、一枚の紙から立体をデザインする立体構成を行い、色、物、形の視点から造形のバランスを整える技術を習得する。										
学習成果	①	デザインの役割を理解する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%				
	②	五感を使った観察力の習得。		2	提出物/期限遵守		60	%			
	③	広い視野に基づくデザイン発想力の習得。		3	独創性/習熟度		30	%			
	※	適切なデザインを導きだす指針となる知識の習得。		4	意欲・授業態度		10	%			
使 教 用 材	●KFDオリジナル実習プリント配布 ●クロッキーブック										

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	デザインとは何か（美について）	アパレルから離れた、デザインの仕組みの理解。
2	3-4	デザインの世界（観察力からのデザイン発想）	五感を使った観察の重要性、スケッチによる観察の仕方の習熟。
3	5-6	デザインと芸術	市場性を含めた、発想から形になる、という一連の流れへの理解。
4	7-8	デザインの起こり・西洋美術史	デザインの起こりを、産業革命以降の潮流から理解する。 西洋美術史の概略を理解し、デザイン発想に活かす基礎知識を習得する。
5	9-10	デザインと諸科学（デザインしたものには意味がある）、デフォルメ【そのデザインへの影響と相互関係】	観察からの発想、その転用や、より特徴的に形をとらえる、という事への理解習熟。
6	11-12	図形の基礎。丸・四角・三角	基本となる幾何学模様、丸、四角、三角。それぞれが象徴する意味を知り、平面構成のデザイン発想につなげる。
7	13-14	コンポジション基礎-対比・整列・シンメトリー・アシンメトリー・リズムの効果	構成における基本的理論の理解、習熟。
8	15-16	コンポジション-平面構成（点・線・面）1	平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。 また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。
9	17-18	コンポジション-平面構成（点・線・面）2	平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。 また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。
10	19-20	コンポジション-平面構成（点・線・面）3	平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。 また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。
11	21-22	作品に対するプレゼンテーション（合評会）1	作品プレゼンテーションの資料作成や演出についての理解、習熟。
12	23-24	デザインと伝統（植物観察） ウィリアム・モ里斯の世界1	自然美からの発想を、アーツアンドクラフツ運動、アールヌーボーの流れをウィリアム・モ里斯の作品を中心に理解する。
13	25-26	デザインと伝統（植物観察） ウィリアム・モ里斯の世界2	自然美からの発想を、アーツアンドクラフツ運動、アールヌーボーの流れをウィリアム・モ里斯の作品を中心に理解する。
14	27-28	日本の伝統美ジャポニスム 浮世絵・墨絵・構成力	ヨーロッパにおけるジャポニスム文化を中心に、文化や風土での発想の違いや、異文化の浸透、デザインにおける新規性の重要性を学ぶ。
15	29-30	日本の伝統美ジャポニスム 日本のもの作り・前期まとめ	ヨーロッパにおけるジャポニスム文化を中心に、文化や風土での発想の違いや、異文化の浸透、デザインにおける新規性の重要性を学ぶ。

後期 授業計画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは準備学習
1	1-2	コンポジション-平面構成（色彩）1	色彩計画を含めた、平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。
2	3-4	コンポジション-平面構成（色彩）2	色彩計画を含めた、平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。
3	5-6	コンポジション-平面構成（色彩）3	色彩計画を含めた、平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。
4	7-8	作品に対するプレゼンテーション（合評会）2	作品プレゼンテーションの資料作成や演出についての理解、習熟。
5	9-10	近代～現代デザインの流れ1（バウハウスから）	バウハウスを代表する近代デザインから現代デザインまでの流れを理解する。また異素材使いの立体作品について知る事で、評価に繋がる「ものづくり」を理解する。
6	11-12	近代～現代デザインの流れ2（バウハウスから）	バウハウスを代表する近代デザインから現代デザインまでの流れを理解する。また異素材使いの立体作品について知る事で、評価に繋がる「ものづくり」を理解する。
7	13-14	近代～現代デザインの流れ3（バウハウスから）	バウハウスを代表する近代デザインから現代デザインまでの流れを理解する。また異素材使いの立体作品について知る事で、評価に繋がる「ものづくり」を理解する。
8	15-16	コンポジション-立体構成1	色彩計画を含めた、立体で基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。与えられた条件でデザイン活動への理解習熟を促す。新規性の創造から、アキスタイルの作成を推奨する。
9	17-18	コンポジション-立体構成2	色彩計画を含めた、立体で基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。与えられた条件でデザイン活動への理解習熟を促す。新規性の創造から、アキスタイルの作成を推奨する。
10	19-20	コンポジション-立体構成3	色彩計画を含めた、立体で基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。与えられた条件でデザイン活動への理解習熟を促す。新規性の創造から、アキスタイルの作成を推奨する。
11	21-22	コンポジション-立体構成4	色彩計画を含めた、立体で基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。与えられた条件でデザイン活動への理解習熟を促す。新規性の創造から、アキスタイルの作成を推奨する。
12	23-24	作品に対するプレゼンテーション（合評会）3	作品プレゼンテーションの資料作成や演出についての理解、習熟。
13	25-26	作品に対する総評	プレゼンテーションを終えたのち、担当教員から全体作品への総評を行い、視野を広げる。
14	27-28	クリエーションにおいてのデザイン発想・リサーチについて	2年次に向けてデザインに取り組むにあたって、その発想への視点、テーマへのリサーチなどを、新規性、独自性、完成度を追求する前提で考える。
15	29-30	まとめ	各課題でのエスキースのまとめを行い、知識の覚え返しとともに、今後のクリエーションへ活用可能な資料の制作を行う。
その他 (授業に際しての注意点)		デザインの基礎的な部分を、色彩計画を含め、実習を通して理解する。同時に、与えられた条件でデザインを行い、正しく伝達するという実務としてのデザイン活動、プレゼンテーション活動についての基礎を学ぶ。服飾デザインIとの連動を行い、発想の活用を行う。	

授業科目等の概要																													
学科	服飾専門課程						ファッションデザイン専攻科 1年																						
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。																												
分類	必修	○	選択		配当年次	1 年	学期	通年	○	前期		後期																	
種別	デザイン						授業方法	講義	△	演習	△	実習																	
授業科目	服飾デザイン I						授業時間数	前期	30	後期	30	計 60																	
担当教員	鈴木 綾						職業実践専門課程：企業との連携																						
※実務家教員	○	企画・製造・販売等の一連の実務経験を活かし、人の為に服をデザインすることは何かまたその発想力を養う方法を教授する。																											
資格検定																													
授業概要	服飾デザイン I の「着る」ことに着目しデザインする事を学ぶ。造形的技術の 3 要素である「形・色・素材」に機能的価値を加えて構成する力を身につける演習を行う。想像力を豊かにし、造形のシルエットやコンセプトワークを行いデザインの面白さや気付きを大切にする。																												
学習成果	①	色・点・線・シルエット等の視覚的効果を理解する。						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果																			
	②	造形を作り、デザインバランスを考える力を養う。							2	提出物/期限遵守																			
	③	テーマを掲げ伝えるデザインを創り出す。							3	独創性/習熟度																			
	※	ファッションデザインを考える力を養う。							4	意欲・授業態度																			
使用教材	●文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑨服飾デザイン ●KFDオリジナル資料 ●雑誌																												

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	服飾デザインのプロセス 自分マップの作成	服飾デザインとは。マップ制作のための構成を考える。
2	3-4	自分マップ プレゼンテーション	自分の考えを相手に伝える仕方を学ぶ。
3	5-6	点・線がもたらす効果	点と線を使った目線の動きの効果を知る。
4	7-8	点・線がもたらす効果	点と線がもたらすデザインの視覚的効果を理解する。
5	9-10	点・線の作品	視覚的効果を活かした作品の1/2サイズの実物制作を行う。
6	11-12	面 服の基本構造 平面服	着ることで立体になる平面服の構造について考える。
7	13-14	面 平面服作品	平面服1/2サイズの実物制作を行い、平面と立体の違いを可視化することで理解する。
8	15-16	シルエット	シルエットを理解し、シルエットが持つイメージを理解する。コレクションからシルエットを見つける。
9	17-18	シルエットを手掛かりにしたデザイン	バランスのとり方を研究し、オリジナルのシルエットを考える。
10	19-20	コンポジション1	シンメトリー/アシンメトリー/リズムの演習を行い理解する。
11	21-22	コンポジション2	ドミナント/セントラリティの演習を行い理解する。
12	23-24	コンポジション3	シミラリティ/コントラストの演習を行い理解する。
13	25-26	久留米絣の作品制作に向けて	久留米絣を使用した作品制作のための情報の収集。テーマコンセプト設定。
14	27-28	久留米絣の作品制作に向けて	久留米絣を使用した作品制作のためのデザインを考える。
15	29-30	久留米絣の作品制作に向けてまとめ	久留米絣を使用した作品制作のデザイン決定。

後期授業計画（10月-3月）			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	コンポジションの効果まとめ	造形的な要素に機能性を持たせたデザインを考える演習を行う。
2	3-4	感性別コレクション分析	感性分類を理解し、コレクションをよく観察し感性別に収集する。
3	5-6	感性別コレクション分析	感性分類を理解し、コレクションをよく観察し感性別に収集する。
4	7-8	発想デザイン1	建築や美術などをアイデアソースとした服のデザインをする。
5	9-10	発想デザイン2	建築や美術などをアイデアソースとした服のデザインをする。
6	11-12	面 製のディテールを活かした柄	コレクションから参考にする資料を選び、柄の配置をアレンジしたデザイン展開を行なう。
7	13-14	面 製の基本構造 立体	立体の服にするための構造線を理解し演習を行う。
8	15-16	面 立体作品1	植物をデザインソースとし、植物がもつ自然体のシルエットや細部をよく観察し、構造線を使った作品を作成する。
9	17-18	面 立体作品2	植物をデザインソースとし、植物がもつ自然体のシルエットや細部をよく観察し、構造線を使った作品を作成する。
10	19-20	面 立体作品3	植物をデザインソースとし、植物がもつ自然体のシルエットや細部をよく観察し、構造線を使った作品を作成する。
11	21-22	オリジナルテキスタイルの考案	作品制作のためのマインドマップ創作
12	23-24	オリジナルテキスタイルの考案	作品制作のためのリサーチブック創作
13	25-26	オリジナルテキスタイルの考案	作品制作のための手法研究
14	27-28	オリジナルテキスタイルの考案	作品制作のための手法研究
15	29-30	作品のプレゼンテーション・まとめ	自分の作品を他者へ伝え、評価を得る。
その他 (授業に際しての注意点)			
	授業外でも沢山の物に触れて柔軟な発想を豊かにしてほしい。美術館や展示会などに、積極的に足を運び、高く評価されているもののバランスを見てほしい。		

学 科		授業科目等の概要										
		服飾専門課程					ファッションデザイン専攻科					
D P/ 学科人材 育成像		学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。										
分 類		必修	<input type="radio"/>	選択		配当年次	1 年	学 期	通年	<input type="radio"/>	前期	
種 別		デザイン					授業方法	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実習
授業科目		ファッション色彩 I					授業時間数	前期	30	後期	30	計 60
担当教員		深田 勝久					職業実践専門課程：企業との連携					
※実務家教員		<input type="radio"/>	日本ファッション教育振興協会ファッション色彩検定問題作問委員であり、広告・商業・店舗デザイン業務で培ってきた実務的、実践的カラーコーディネートを、基礎知識と効果的かつ実践的な配色を教授し、演習を通して「色を提案出来るスキル」を伝授する事を狙いとする。									
資格検定		一般財団法人日本ファッション教育振興協会：ファッション色彩能力検定3級					必修	<input type="radio"/>	選択			
授業概要	ファッション業界の各職種で必要な感性スキル「色＝カラーコーディネート」。1年次は業界で必要とされる基礎知識、色を使うための基本的スキル（三属性の理解）（物理的・心理的側面の理解）（色が齎すコンセプトの考え方）（業界での色の役割）、結果として、ビジネス面で色の効果を提案できる力を習得することを狙いとする。実施方法は、講義及び、配色実習（カラーカード）で実践的に演習を繰り返し、「個性を生かしつつ、同時に提案されたテーマを読み取り色で表現できるスキル」を習得することを目標とする。※前・後期イレギュラーな回数で行うが、通年で換算することとする。											
	① 色の効果、役割を理解する。 ② 色を見分け、色の三属性を理解し、表示できるスキルを取得。 ③ 色の特性を理解し、配色の効果を表現するスキルを取得。 ※ 色の使い方を提案できるスキルの習得。					成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果			%	
学習成果							2	提出物/期限遵守			%	
使用教材		●日本ファッション教育振興協会 ファッション色彩【I】 ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●JIS BASIC COLOR140										

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習		
1 1-2	No. 01・生活における色彩の働き1		色に興味を持ってもらうための準備段階。色が生活中でどのような意味を持ちどのように効果を与えているのか、また人間と色の関係などを事例を用いながら理解を深める。		
2 3-4	No. 01・生活における色彩の働き2		色に興味を持ってもらうための準備段階。色が生活中でどのような意味を持ちどのように効果を与えているのか、また人間と色の関係などを事例を用いながら理解を深める。		
3 5-6	No. 02・生活における色彩の働き1（色の価値観）&No. 03・視認性付録 No. 04・Munsell BASIC COLOR 140 for JIS 1		生活の中で色がどのような役割を果たしているかを事例を用いながら理解を深める。日本はJIS規格が採用されており、基本カラーチャートを作成し手元に置くことで色を検討する。		
4 7-8	No. 02・生活における色彩の働き2（色の価値観）&No. 03・視認性付録・No. 04・Munsell BASIC COLOR 140 for JIS 2		生活の中で色がどのような役割を果たしているかを事例を用いながら理解を深める。日本はJIS規格が採用されており、基本カラーチャートを作成し手元に置くことで色を検討する。		
5 9-10	No. 05・色彩の体系 色の三属性：色相(Hue)		授業の要。配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「色相=色み」の基本を色みを見分けることを体験し理解を深める。（この授業の要である、重要スキル）		
6 11-12	No. 06・色彩の体系 色の三属性：明度(Value)		配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「明度=明るさの違い」の基本を色の明るさを体験し理解を深める。（授業の要である、重要スキル）		
7 13-14	No. 07・色彩の体系 色の三属性：彩度(Chroma)		配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「彩度=鮮やかさの違い」の基本を色の鮮やかさを体験し理解を深める。（授業の要である、重要スキル）		
8 15-16	No. 08・色彩の体系 色の三属性：色調(Tone)		色を感覚的に利用する上で、「Hue&Tone」は必須である。形式的にトーンの配置とトーンのイメージを通して理解を深める。（授業の要である、重要スキル）		
9 17-18	No. 09・色彩理論 色の成り立ち		色は心理物理的現象である。光を物理の視点である「スペクトル」を通して「見えるのか」「波長の色」という視点で理解を深める。		
10 19-20	No. 10・色彩理論 三原色と混色		光の混色効果と、色料の効果をはじめ、色を混ぜ合わせる「混色」という視点で体験し理解を深める。		
11 21-22	No. 11・色彩理論 眼球の仕組1		心理物理的現象に不可欠な「目の構造」を知り、色の再現性と結びつけることで理解を深める。		
12 23-24	No. 11・色彩理論 眼球の仕組2（網膜）		心理物理的現象に不可欠な「目の構造」を知り、色の再現性と結びつけることで理解を深める。人は同じ色を見ている訳ではない。		
13 25-26	No. 12・色彩理論-基礎：色彩と心理（色の見え：対比現象）1		隣接された色がどのように見えるのか「配色効果」を知ることは配色する上で必要な知識となる。		
14 27-28	No. 12・色彩理論-基礎：色彩と心理（色の見え：対比現象）2		隣接された色がどのように見えるのか「配色効果」を知ることは配色する上で必要な知識となる。		
15 29-30	覚え返し（半期のポイントをおさらい）		ノートのまとめをはじめ、受講した内容を再度おさらい。		

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	No. 13・色彩理論-基礎：色彩と心理（色の見え：同化現象）	講じられた色がどのように見えるのか「配色効果」を知ることは配色する上で必要な知識となる。
2	3-4	No. 14・配色の基礎（配色のセオリー）	配色する上での説和「類似」「対照」を理解する。また、色の持つ感情効果とイメージを理解する。ドミナント／コントラスト
3	5-6	No. 15・色相環配色（同一色相・類似色相・対照色相・補色色相）1	色彩の基本でもある色相環を基準にした配色効果を体感し理解する。
4	7-8	No. 15・色相環配色（同一色相・類似色相・対照色相・補色色相）2	配色の基本でもある色相環を基準にした配色効果を体感し理解する。
5	9-10	No. 16・トーンを基準とした配色(Hue&Tone) 1	配色の応用でもあるトーンを基準にした「まとまり感」「きわ立ち感」等の配色をマトリクス表を経て体感し理解する。
6	11-12	No. 16・トーンを基準とした配色(Hue&Tone) 2	配色の応用でもあるトーンを基準にした「まとまり感」「きわ立ち感」等の配色をマトリクス表を経て体感し理解する。
7	13-14	No. 17・色彩構成の基礎/Composition(安定と変化の配色)	配色を構成する上で重要なのは、快い配色の「構成」を知る事である。三属性を視点に置いて安定と変化。デザインする上でのコンセプト作りに役立つので、雑誌等からスクラップする事が望ましい。
8	15-16	No. 18・色彩構成三属性による感情効果&安定と変化（応用）	配色を構成する上で重要なのは、快い配色の「構成」を知る事である。三属性を視点に置いて安定と変化。デザインする上でのコンセプト作りに役立つので、雑誌等からスクラップする事が望ましい。
9	17-18	No. 19・色彩構成(Composition)	配色を構成する上で重要なのは、快い配色の「構成」を知る事である。三属性を視点に置いて安定と変化。日頃からコレクション雑誌等のスタイルをスクラップしておく事が望ましい。
10	19-20	No. 20・ファッション産業における色彩の役割	ファッション業界での色の役割を体感し理解を深める。(トレンドカラーの発生はいつからなのか?)その年のトレンドカラー一情報定期的に入手しておく事が望ましい。
11	21-22	No. 21・中間混色：並置混色	複数の絆・隣系に隣接する色の同時対比と色相環での配置によって、混色具合がどのように見えるかを理解。身边にあるテキスタイルを理解しておく事が望ましい。
12	23-24	No. 22・中間混色：回転混色	色の混色は網膜以降でどのように色が認識されるのかを統合混色の概念で実験、その効果を理解する。
13	25-26	No. 23・日本の流行色1('50～'70)	日本における色の流行の変遷(1950～現在迄)を知り、歴史を理解することで、様々な配色のアプローチに繋げることを狙いとする。日頃からコレクション雑誌等のスクラップを集めておくことが望ましい。
14	27-28	No. 24・日本の流行色2('80～現在)	日本における色の流行の変遷(1950～現在迄)を知り、歴史を理解することで、様々な配色のアプローチに繋げることを狙いとする。日頃からコレクション雑誌等のスクラップを集めておくことが望ましい。
15	29-30	覚え返し(半期のポイントをおさらい)	ノートのまとめをはじめ、受講した内容を再度おさらい。
その他 (授業に際しての注意点)		○授業意欲として日頃からコレクション雑誌等を「色」という視点で見読する事を推奨する。講義内容に対しても、わからない事は積極的に質問をし、各自理解することが望ましい。 ○授業毎に配布される課題は、提出期限を厳守すること。また、採点後、再提出の際、何を見落としていたのかを理解し、積極的に質問し改善する事が望ましい。必要教材(配色カード)を忘れるは受講困難になるので注意が必要である。	

授業科目等の概要																			
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 1年																		
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モダリスト）を目指す。																		
分類	必修	○	選択		配当年次	1年	学期	通年	○	前期		後期							
種別	デザイン				授業方法	講義	△	演習	△	実習	○	選択							
授業科目	ドローイング I				授業時間数	前期	30	後期	30	計	60								
担当教員	舞田 章子				職業実践専門課程：企業との連携														
※実務家教員	○	他校講師ならびに自身のコンクール入賞経験を経て評価を得ている。ドローイングの基礎力を伝授する。																	
資格検定									必修			選択							
授業概要	人体のプロポーションを理解し基礎力につけるため、短時間で特徴を掴むクロッキーを常に行い、平面画および素材表現に必要な基本的な着彩を学習する。1年次では基本的な描き方の練習を積みながら洋服の構造を読み取り、絵で表現する力を身につけることを目的とする。																		
学習成果	①	人体のプロポーションを理解する。				成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%									
	②	ボディバランスを理解し、様々なポージングの描き方を習得する。					2	提出物/期限遵守		80	%								
	③	ドローイングに必要な画材を使用し、基本的な着彩方法を学ぶ。					3	独創性/習熟度		10	%								
	※	基礎能力を固めデザインを伝える事が出来るようにする。					4	意欲・授業態度		10	%								
使用教材	●KFDオリジナル実習プリント配布 ●ドローイングセット ●コレクション雑誌																		
前 期 授 業 計 画 (4月-9月)							授業習熟度のねらいまたは、準備学習												
1	1-2	人体のバランスの法則／線の練習 ボディの描き方（女性）					人体のバランスを8頭身で理解し、鉛筆を使用し線に慣れる。 ヌードボディを描き、人体のプロポーションを理解する。												
2	3-4	顔と髪の描き方（女性）／陰影の入れ方（顔）					顔と髪の表現方法を習得する。												
3	5-6	様々なボディバランス レースの仕方／陰影の入れ方（ボディ）					様々なポージングを描ける事を習得する。基礎的なトレースの仕方を習得し、鉛筆の強弱で描く事により陰影の付け方を習得する。												
4	7-8	アウトラインの描き方／シルエットの描き方（着装）					服のシルエットを把握し、ボディに描けるようにする。												
5	9-10	平面画の描き方／ドレープの描き方					デザイナーに必須である、平面画の描き方を学ぶ。また布地の柔らかさの特性を描けるようになる。また、前回に引き続き平面画の描き方を習得する。												
6	11-12	仕上げ線の入れ方					仕上げをする、ペン入れの仕方を学ぶ。												
7	13-14	色鉛筆の使い方					色鉛筆の基礎的な描き方を習得する。												
8	15-16	文化のスタイル画① 下書き					文化服装学院遠鎮校ファッショントン画コンクールの下書きを行う。初めてのコンテストに挑戦する。												
9	17-18	パステルの塗り方①					パステルの特徴を知り、パステルの塗り方を習得する。												
10	19-20	透明水彩絵の具の塗り方①					基礎的な水彩画の着彩方法を習得する。筆の使い方も学ぶ。												
11	21-22	不透明水彩絵の具の塗り方①					不透明水彩の特徴を知り、絵の具の塗り方を習得する。												
12	23-24	文化のスタイル画② 着彩					文化服装学院遠鎮校ファッショントン画コンクールの着彩を行う。												
13	25-26	文化祭作品①					前期に学んだことを活かし、文化祭展示に向けて下書きを行う。												
14	27-28	文化祭作品②					前期に学んだことを活かし、文化祭展示に向けて、着彩を行う。												
15	29-30	文化祭作品③まとめ					前期に学んだことを活かし、文化祭展示に向けて、仕上げを行う。												

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	透明水彩絵の具の塗り方②	基礎的な水彩画の着彩方法を習得する。筆の使い方も学ぶ。
2	3-4	不透明水彩絵の具の塗り方②	不透明水彩の特徴を知り、絵の具の塗り方を習得する。
3	5-6	パステルの塗り方②	パステルの特徴を知り、パステルの塗り方を習得する。
4	7-8	素材表現1	薄物から、毛足の長い素材の描き方を習得する。
5	9-10	素材表現2	薄物から、毛足の長い素材の描き方を習得する。
6	11-12	柄表現1	チェック・ヒョウ柄・レースなどの特殊素材の柄の描き方を身に付ける。
7	13-14	柄表現2	チェック・ヒョウ柄・レースなどの特殊素材の柄の描き方を身に付ける。
8	15-16	マーカーの描き方	マーカーの特徴を知り、絵の具の塗り方を習得する。
9	17-18	制作スーツの下書き1	ソーリングで制作する、スーツを描く。着用したものと平面画を描く。
10	19-20	制作スーツの下書き2	ソーリングで制作する、スーツを描く。着用したものと平面画を描く。
11	21-22	制作スーツの下書き3	ソーリングで制作する、スーツを描く。着用したものと平面画を描く。
12	23-24	制作スーツ着彩1	上記で描いた下絵の着彩を行う。
13	25-26	制作スーツ着彩2	上記で描いた下絵の着彩を行う。
14	27-28	制作スーツ着彩3/ボディバランステスト	上記で描いた下絵の着彩を行う。また、1年間の最終確認としボディバランスが把握出来ているかの確認テストを行う。
15	29-30	ファイル整理・まとめ	1年間仕上げてきた絵をファーリングし、復習も兼ねて見直す。
その他 (授業に際しての注意点)		ドローイングは毎日描く事が好ましい。ボディバランスは描いた分技術は上達し、スピードも上がる。	

学 科		服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 1年										
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。											
分 類	必修	○	選択	配当年次	1 年	学期	通年		前期		後期	
種 別	パソコン										○	
授業科目	グラフィック I										○	
担当教員	城代 蘭										○	
※実務家教員	○	アパレル企業の営業企画での実務経験及び国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級取得にて培ってきた、実務性の高い服飾形に関する知識を教授する。										
資格検定											必修	
授業概要												
	ビジネス社会では常識になりつつあるパソコンの利用方法について、パソコンの基本的な知識から応用（実践）まで学習していく。基本的なパソコンを理解後、現代デザインの主軸となっているグラフィック演習に移行する。1年次は主にAdobe Photoshopを使い画像の処理、編集を学ぶ。現代のデザインで必要な事を盛り込んだ授業である。											
学習成果	①	パソコン基本操作を理解し活用する。					成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%	
	②	Adobe Photoshopの使用方法を理解し、基本的画像編集能力を習得。						2	提出物/期限遵守	80	%	
使用教材	③	編集した画像を使用し、伝わりやすいデザイン的構成力を習得。						3	独創性/習熟度	10	%	
	※	各種グラフィックツールを利用してデザインする能力の習得。						4	意欲・授業態度	10	%	

後 期 授 業 計 画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	パソコンとは？個人撮影PhotoBooth・データベース利用	パソコンの基本操作、共有ストレージの利用方法、PC室の利用方法を理解し、活用出来るようにする。
2	3-4	グラフィック（フィルタ）【シャボン玉】	Adobe Photoshopの基本的な操作を理解し、画像編集の活用性、デザインツールとしての有用性を理解する。雑誌掲載写真等とオリジナルの写真を見比べ、その違いを絞り込んでおなじみにする。
3	5-6	グラフィック（スキャナー）【解像度理解】	スキャナーの使用法を理解し、活用出来るようにする。また、解像度という考え方を理解し、適切に選択出来るようにする。取り込む写真等の用意をしておく事が望ましい。
4	7-8	テクスチャ作成（コルクボード）1	画像編集、フィルターの使い方を理解し、テクスチャ制作技術、その有用性を理解する。また、実務における正確なデータのやり取りを、カラーナンバーを使い理解する。
5	9-10	テクスチャ作成（コルクボード）2	画像編集、フィルターの使い方を理解し、テクスチャ制作技術、その有用性を理解する。また、実務における正確なデータのやり取りを、カラーナンバーを使い理解する。
6	11-12	グラフィック（選択ツール）【なげなわ・多角形・マグネット】	画像の切り抜きを、各ツールを使って行い、それぞれの特性を理解する。また、レイヤーの基本的な考え方を理解する。
7	13-14	グラフィック（ペンツール）【アンカーポイント・セグメント】	ペンツールを使い、より実務的な切り抜き方法を理解する。また、パスについての基本的な理解を行う。
8	15-16	グラフィック（スタンプ）【修正とパスパレット】1	より応用的な画像の修正を行い、色彩、明るさ、コントラストの修正に関する知識を得る。
9	17-18	グラフィック（スタンプ）【修正とパスパレット】2	より応用的な画像の修正を行い、色彩、明るさ、コントラストの修正に関する知識を得る。
10	19-20	グラフィック Adobe Illustrator 原型トレース	Adobe Illustratorの基本的な操作方法を、既存原型をトレースすることで習得する。
11	21-22	グラフィック Adobe Illustrator パスファインダ・整列	トレースしたオブジェクトを、パスファインダで合成、分割し、基本的なオブジェクト操作を習得する。また、各種データを整列、分布することで、バランスの取れた配置が作れる基本技術を習得する。
12	23-24	グラフィック Adobe Illustrator シャツ企画書作成	作成したパターンを使用し、用意されたキャッシュョン、画像をレイアウトし、シャツの企画書の作成を行う。余白の考え方の習得、見やすいレイアウトの基本知識を習得する。
13	25-26	グラフィックテーマ 制作スーツ企画書表紙作成1	これまで得た知識、技術を使い、制作したスーツのコンセプトに合う表紙の作成を行い、デザイン発想力、構成力を習得する。
14	27-28	グラフィックテーマ 制作スーツ企画書表紙作成2	これまで得た知識、技術を使い、制作したスーツのコンセプトに合う表紙の作成を行い、デザイン発想力、構成力を習得する。
15	29-30	まとめ	ノート及び提出データのまとめを行い、覚え返しを図る。
その他 (授業に際しての注意点)		パソコンを使用する際の、正しい使い方を理解し活用していく事。著作物の違法仕様など、デザイン制作におけるコンプライアンスを遵守するよう注意する。	

学 科		授業科目等の概要									
		服飾専門課程					ファッションデザイン専攻科				
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダーの存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モダリスト）を目指す。					1年					
分 類	必修	○	選択		配当年次	1 年	学 期	通年	○	前期	
種 別	服飾造形					授業方法		講義	○	演習	△
授業科目	パターンメーキング I					授業時間数	前期	162	後期	157	計 319
担当教員	大古場 真由美					職業実践専門課程：企業との連携					○
※実務家教員	○	アパレルメーカーでの実務経験で培った知識を伝授する。職業訓練指導員の資格を活かし効率よく技術を教える。また、国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級で取得した技術を活かし、基礎能力を高め、身につけさせる。									
資格検定	一般財団法人日本ファッション教育振興協会：パターンメーキング技術検定3級								必修	○	選択
授業概要	パターン制作の作図理論から始まり、各種アイテム、ディテールの基本作図、各種シルエットの展開方法やパターン操作を学ぶ。また、工業用パターンを作る上で必要な知識と、企画に基づく知識を身に付ける。パターンメーキング技術検定試験3級の合格相当の力をつけることを目標とする。										
学習成果	①	線の引き方から、展開方法の基礎知識を習得する。					成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果	80	%
	②	各種アイテムの基本シルエットを把握し作図方法を身に付ける。						2	提出物/期限遵守	10	%
	③	工業用作図方法を身につけ縫製仕様の知識を身に付ける。						3	独創性/習熟度		%
	※	軽衣料を重点的にパターン作図の基礎知識を身に付ける。						4	意欲・授業態度	10	%
使 教 用 材	●文化ファッション大系 服飾関連専門講座①②③④、パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック ●KFDオリジナルプリント配布 ●縮尺定規 1/4 1/2、自在定規、トレーシングペーパー、メンディングテープ、方眼ノート										

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)				授業習熟度のねらいまたは、準備学習			
1	1-11	線の引き方、エプロンの作図 キュロット 1/4縫代付け 仕様書		衣服制作上必要な用具を用いて作図することによりその役割と機能、及び技巧を習得する。			
2	12-22	作図の基礎 ワンピースとキュロット		作図を通じて形状に応じた線の引き方を理解し、服の形成まで発展させる。人体の構造線を認識し、ダーツの位置、分量、ゆとりなど衣服に対する機能を理解する。			
3	23-33	ワンピース 縫代付け ワンピースのデザイン展開		衣服の構成上、身頃とスカートが接着しているワンピースの機能性と作図法、パターン展開時の操作方法を習得する。			
4	34-44	ワンピースの衿ぐり各種 スカートの展開		衿ぐりの様々なラインの作図法を習得する。パターン展開時の操作方法を理解する。スカートの基本シルエットの構成と作図法を理解する。パターンリスト、仕様書等言葉の描き方を理解する。			
5	45-55	シャツブラウス作図 スカート各種 (ギャザー ティアード)		シャツブラウスの基本シルエットの作図法を習得する。基本的なスカートの構成と作図法を理解する。			
6	56-66	シャツブラウス作図 台衿付きシャツカラー作図 衿各種		シャツブラウス、台衿付きシャツカラーのシャツの基本シルエットの構成と作図法を習得する。衿各種の作図法を理解する。			
7	67-77	台衿付きシャツカラーのシャツ 1/2作図 1/2縫代付け実物作図縫代付け 袖各種 (フレアギャザー、キャップ、フレンチ)		台衿付きシャツカラーのシャツの基本シルエットの構成と作図法を習得する。袖各種の作図法を理解する。			
8	78-88	袖口明き Aラインブラウス 衿各種 袖各種		シャツ袖口明きの作図法を理解する。衿、袖各種の作図法を理解する。Aラインの引き方を習得する。			
9	89-99	文化祭作品 1/2作図 型出し 実物作図		応用デザインを通して軽衣料の作図への理解を深める。			
10	100-110	文化祭作品実物作図		応用デザインを通して文化祭作品への理解を深める。			
11	111-121	文化祭作品型出し 修正		応用デザインを通して軽衣料の作図への理解を深める。			
12	122-132	文化祭作品作図 3面ジャケット 1/2作図 いせ計算 検定対策 アパレルパターンメーキング		応用デザインを通して軽衣料の作図への理解を深める。1枚半袖の作図法を習得する。パターンメーキング検定受験に向けたアパレルパターンメーキングの強化。			
13	133-143	3面ジャケット実物作図 (身頃) 検定対策		ジャケットの基本シルエット (3面構成) の作図法を習得する。パターンメーキング検定受験に向けたアパレルパターンメーキングの強化。			
14	144-154	3面ジャケット実物作図 (袖) 検定対策		1枚半袖の作図法を習得する。パターンメーキング検定受験に向けたアパレルパターンメーキングの強化。			
15	155-162	ジャケットまとめ		ジャケット (3面構成) の基本シルエットの構成と作図法を習得する。			

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-11	裏付きジャケット(身頃) 表衿、見返し展開 縫代付け	裏付きジャケット(4面構成) の基本シルエットの作図法を習得する。
2	12-22	裏付きジャケット作図 2枚袖作図 いせ計算 検定対策APM	裏付きジャケット(4面構成) の基本シルエットの作図法を習得する。2枚袖の構造を理解する。仕様書の描き方を習得する。検定に向けたアパレルパターンメーキングの強化。
3	23-33	ジャケット袖・裏 作図	2枚袖の作図を習得する。ジャケットのパターン展開の確認と裏パターン作図法を習得する。工程表の描き方を取得する。検定に向けたアパレルパターンメーキングの強化。
4	34-44	検定対策 裏付きジャケット作図 見返し展開等	パターンメーキング検定受験に向けたアパレルパターンメーキングの強化。
5	45-55	検定対策 裏付きタイトスカート作図1	パターンメーキング検定受験に向けたアパレルパターンメーキングの強化。
6	56-66	検定対策 裏付きタイトスカート作図2	パターンメーキング検定受験に向けたアパレルパターンメーキングの強化。実物作図の理解を深める。
7	67-77	検定対策トワル組み立て トライアル	トワルのピン打ちの完成度を強化する。時間内に達成できる能力を身に付ける。
8	78-88	検定対策トライアル1	時間内に達成できる能力を身に付ける。
9	89-99	検定対策トライアル2 検定見直し 裏付きタイトスカート	時間内に達成できる能力を身に付ける。
10	100-110	裏付きタイトスカート表パターン修正 縫代付け スカートの展開	スカートの縫代付け角処理等を理解する。基本的なスカートの構成と作図法を理解する。
11	111-121	スカートの展開1	基本的なスカートの構成と作図法を理解する。
12	122-132	スカートの展開2	基本的なスカートの構成と作図法を理解する。
13	133-143	身頃 デザイン展開(胸ぐせ処理)	胸ぐせを、デザイン展開し、応用する能力を身につける。
14	144-154	軽衣料 トライアル	軽衣料のトライアルを通して、理解度や実技能力のレベルを認識させる。
15	155-157	企画書のまとめ	裏付きスーツのデザイン～パターン、客類等一連の流れをファイルに整理する。
その他 (授業に際しての注意点)		反復練習を通して、パターンの実務を徐々に習得出来るようにする。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッションデザイン専攻科		1年
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。				
分 類	必修	○	選択	配当年次	1 年
種 別	服飾造形			授業方法	講義 △ 演習 ○ 実習
授業科目	ドレーピング I			授業時間数	前期 後期 15 計 15
担当教員	大古場 真由美			職業実践専門課程：企業との連携	
※実務家教員	○	アパレルメーカーでの実務経験で培った知識を伝授する。職業訓練指導員の資格を活かし効率よく技術を教える。また、国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級で取得した技術を活かし、基礎能力を高め、身につけさせる。			
資格検定					必修 選択

授業概要	立体裁断は、着心地のよい機能性を伴うパターン制作に欠かせない技術である。そのため、1年次では、基本の布目の読み取り、シルエットの構成、量感、フィット感を理解する事を目的とする。				
学習成果	① 布地の方向、布目を理解し立体裁断の基礎を学ぶ。 ② 人体の丸みを把握しダーツの位置を立体で把握する。 ③ シルエット、ゆとりを把握する。 ※ 立体裁断をする事により人体の構造の理解を得る。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果	%
		2	提出物/期限遵守	80	%
		3	独創性/習熟度	10	%
		4	意欲・授業態度	10	%
使用教材	●文化ファッション大系 服飾関連専門講座③ ●KFDオリジナルプリント配布 ●洋裁道具 実物定規 シーチング 製図用紙				

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	トップス ウエストダーツ1	原型を立体裁断で組み立てる事により、平面作図で把握したダーツの位置やゆとりの知識を深める。
2	3-4	トップス ウエストダーツ2	原型を立体裁断で組み立てる事により、平面作図で把握したダーツの位置やゆとりの知識を深める。
3	5-6	トップス ウエストダーツ3	原型を立体裁断で組み立てる事により、平面作図で把握したダーツの位置やゆとりの知識を深める。
4	7-8	ドラフティング・パターンチェック・再組み立て	ドラフティングを行い線の修正技術を身に付ける。修正後、組み立てる事により美しいシルエットを把握する。
5	9-10	ボトムス タイツスカート1	原型を立体裁断で組み立てる事により、平面作図で把握したダーツの位置やゆとりの知識を深める。
6	11-12	ボトムス タイツスカート2	原型を立体裁断で組み立てる事により、平面作図で把握したダーツの位置やゆとりの知識を深める。
7	13-14	再組み立て	修正後、組み立てる事により美しいシルエットを把握する。
8	15	まとめ	学んだ事の総復習。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

授業科目等の概要																										
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 1年																									
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。																									
分類	必修	○	選択	配当年次	1年	学期	通年	○	前期	後期																
種別	服飾造形					授業方法	講義	△	演習	△	実習															
授業科目	ソーイング I					授業時間数	前期	150	後期	195	計 345															
担当教員	大古場 真由美					職業実践専門課程：企業との連携					○															
※実務家教員	○	アパレルメーカーでの実務経験で培った知識を伝授する。職業訓練指導員の資格を活かし効率よく技術を教える。また、国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級で取得した技術を活かし、基礎能力を高め、身につけさせる。																								
資格検定																										
授業概要	服作りをする上で、欠かすことの出来ない基本知識とプロセスを実習の中で身につけ、部分的なディテール実習も含めながら衣服形成の基礎製作技術を習得する。1年次の進級作品として裏付きジャケットスーツ制作を目標とする。																									
学習成果	① 構造を理解し、アパレルデザイナー基礎能力を身につける。 ② アパレル造形・仕様を理解する。 ③ 部分縫いで習得した技術を基にデザインの幅を広げる。 ※ 基礎を身に付ける事により、服の構造の理解を深める。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果			%	2	提出物/期限遵守			%													
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④ ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●洋裁道具 実物定規																									

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)				授業習熟度のねらいまたは、準備学習			
1	1-10	ミシンの基礎 縫い代始末 地直し 裁断 縫製 手縫いの基礎					縫製技術の基礎となる、テクニックを正確に習得する。
2	11-20	手縫いの基礎 エプロン裁断 縫製					エプロン制作を通して、地の目を理解し型くずれしない服に仕立てる技術を身につける。
3	21-30	キュロット裁断縫製 部分縫い ワンピース裁断 縫製					布地の取り扱い、カーブのミシン縫い縫製技術の基礎技術として理解を深める。コンシールファスナー付けミシンが出来るようにする。
4	31-40	ワンピース縫製					ワンピースを一着仕上げる。コンシールファスナーの付け方を復習し、より理解を深める。
5	41-50	ワンピース縫製 セミタイトスカート裁断 部分縫い 裁断 縫製					セミタイトスカートを一着仕上げる。エプロンファスナー付けミシン・ベルトの仕様を理解する。
6	51-60	部分縫い 縫製 セミタイトスカート裁断 縫製					セミタイトスカートを一着仕上げる。仕様を理解する。
7	61-70	セミタイトスカート 縫製 シャツブラウス 部分縫い 裁断 縫製					前日の復習も兼ねてセミタイトスカートを仕上げる。シャツカラーの仕様を理解する。
8	71-80	シャツブラウス工程表 裁断 縫製					シャツブラウスを早く美しく継う為の工程を理解しパターン枚数の確認をし、制作を行う。
9	81-90	シャツブラウス縫製 部分縫い（台衿付きシャツ） 裁断 縫製					シャツブラウスを仕上げる。台衿付きシャツカラーの仕様を理解する。
10	91-100	部分縫い（台衿付きシャツ） 縫製					台衿付きシャツカラーの仕様を理解する。
11	101-110	部分縫い（袖口見返し明き・バイピング） 裁断 縫製					袖口における明きの始末を通して制作するデザインの幅を広げる。
12	111-120	部分縫い 縫製 文化祭作品仕様書 裁断					多種ディテールの部分縫いを行いデザインの幅を広げる。文化祭作品に向けて制作物の仕様を確認する。
13	121-130	文化祭作品 裁断 縫製					表現する喜びを学ぶ。伝統植物久留米絣を使用し軽衣料制作を行う。これまでの部分縫い等を応用させ技術を高め、素材の価値の理解を深める。
14	131-140	文化祭作品 縫製1					表現する喜びを学ぶ。伝統植物久留米絣を使用し軽衣料制作を行う。これまでの部分縫い等を応用させ技術を高め、素材の価値の理解を深める。
15	141-150	文化祭作品 縫製2					表現する喜びを学ぶ。伝統植物久留米絣を使用し軽衣料制作を行う。これまでの部分縫い等を応用させ技術を高め、素材の価値の理解を深める。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-13	文化祭作品	表現する岩びを学ぶ。伝統模物久留米糸を使用し靴衣料制作を行う。これまでの部分縫い等を応用させ技術を高め、素材の価値の理解を深める。
2	14-26	部分縫い(縫い代の始末) 部分縫い(テーラードカラー)	多種ある縫い代の始末を理解する。また、テーラードカラーの部分縫いをし、骨の構造を理解し縫製技術を高める。
3	27-39	部分縫い(アウトポケット)	仕立ての縫製仕様の理解、及び合理的な縫製方法を学ぶ。
4	40-52	部分縫い(ラップポケット・箱ポケット)	ラップポケット・箱ポケットの仕様を理解する。
5	53-65	裏付きジャケット工程表 仕様書等	裏付きジャケット制作を行う前に工程・仕様の理解を深める。また、裏付きジャケットの裏地の無いマーキング、芯貼り・テープ貼りの理解と縫製技術を高める。
6	66-78	裏付きジャケット裁断・縫製	裏衣料のアイロンのかけ方、裁断、縫製技術を身につける。
7	79-91	裏付きジャケット縫製1	裏衣料のアイロンのかけ方、縫製技術を身につける。裏地の特性を理解する。
8	92-104	裏付きジャケット縫製2	裏衣料のアイロンのかけ方、縫製技術を身につける。裏地の特性を理解する。
9	105-117	裏付きジャケット縫製3	裏衣料のアイロンのかけ方、縫製技術を身につける。裏地の縫製技術を高める。
10	118-130	裏付きジャケット縫製4 タイトスカート表裁断 裏裁断 部分縫い	タイトスカートの裁断を行い、ウール素材の特性の理解を深める。裏地の縫製技術を高める。ファスナー・ベンツの部分縫いをする事により縫製仕様の理解を深める。
11	131-143	部分縫い(ファスナーベンツ明き) 裏付きタイト 仕様書等	裏付きタイトスカートの工程・仕様の理解を深め、合理的な制作を目指し下準備を行う。
12	144-156	裏付きタイトスカート縫製1	裏付きタイトスカートを通して、ファスナー・ベンツの縫製技術を理解し高める。一着仕上げる事により裏衣料の縫製技術を高める。
13	157-169	裏付きタイトスカート縫製2	裏付きタイトスカートを通して、ファスナー・ベンツの縫製技術を理解し高める。一着仕上げる事により裏衣料の縫製技術を高める。
14	170-182	裏付きタイトスカート縫製3	裏付きタイトスカートを通して、ファスナー・ベンツの縫製技術を理解し高める。一着仕上げる事により裏衣料の縫製技術を高める。
15	183-195	まとめ	まとめ作業。裏衣料のボタン付けや千鳥縫い等の手作業を行う。
その他 (授業に際しての注意点)	常に制作する事で技術向上が図れる。提出日に間に合うよう、計画を立て作業に邁進すること。授業内で終わらなかった場合放課後で補う必要がある。		

授業科目等の概要																															
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 1年																														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダーの存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。																														
分類	必修	○	選択	配当年次	1年	学期	通年		前期	○	後期																				
種別	服飾造形				授業方法	講義	△	演習	△	実習	○																				
授業科目	ハンドワーク I				授業時間数	前期	30	後期		計	30																				
担当教員	高木亜由美				職業実践専門課程：企業との連携																										
※実務家教員	○	劇団四季にて舞台衣装の製作に長年携わり、衣装製作で必要な手芸を伝授する。																													
資格検定																															
授業概要	手作業で装飾するための基礎的な技術を習得し、作品のデザイン性や商品価値を高める。また、市場でどのように使われているのかを知ることにより、応用できるテクニックを身に付け、制作物の一部にデザインし、図案を考え、作品に活かす。																														
学習成果	① 基礎的なハンドワーク技術の取得。 ② 自由作品課題に応用できるテクニックの習得。 ③ アパレル商品のデザイン性や商品価値を高める。 ※ 製造業における手作業の技術向上。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1 定期試験結果 2 提出物/期限遵守 3 独創性/習熟度 4 意欲・授業態度	% % % %																											
使用教材	●文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑧ ●KFDオリジナル実習プリント配布																														

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1 1-2	エンプロイダリー 色糸刺繡 基本		代表的な刺繡である色糸刺繡の基本となるアウトラインステッチやチェーンステッチなど7つの刺し方を理解し、実践・習得する。
2 3-4	エンプロイダリー 応用 (エプロン) ①		実習物のエプロンに図案レイアウトを決め、配色を考えて刺繡する。
3 5-6	エンプロイダリー 応用 (エプロン) ②		実習物のエプロンに刺繡する。
4 7-8	エンプロイダリー スモッキング 基本		オートクチュールだけでなく既製服にも用いられるスモッキングの技法を理解し、実践・習得する。基本となるバーンスマッキングとラティスマッキングを部分的に刺繡する。
5 9-10	マクラメ編み		生活に身近なマクラメの基本的な技法を理解し、実践し・習得する。ミサンガを作成する。
6 11-12	ドロンワーク ハーダンガー 基本		布目を數えながらのサテンステッチ、糸抜きやドロンワークを理解し、実践・習得する。コースターサイズで制作する。
7 13-14	エンプロイダリー 色糸刺繡・ビーズ・スパングル カットワーク刺繡 基本		装飾表現の中で最も美しく、輝かしく表現できる技法(ビーズのつけ方、スパングルのつけ方)や、生地に柄や模様を表現する技法(アイレットワーク刺繡・カットワーク刺繡)を理解し、実践・習得する。
8 15-16	エンプロイダリー 応用 (シャツ) ①		実習物のシャツに図案レイアウトを決めて刺繡する。各々が図案からデザイン・配色を構成する。
9 17-18	エンプロイダリー 応用 (シャツ) ②		実習物のシャツに図案レイアウトを決めて刺繡する。各々が図案からデザイン・配色を構成する。
10 19-20	エンプロイダリー 応用 (シャツ) ③		実習物のシャツに図案レイアウトを決めて刺繡する。各々が図案からデザイン・配色を構成する。
11 21-22	カギ針編み 基本		かぎ針編みの基本となる鎖編みを理解し、実践・習得する。ストールを作成する。
12 23-24	文化祭 売品制作 ①		くるみボタン・ブローチ・バッグなど数点から、各自一つ選んで制作する。作るアイテムを決め、図案構成・レイアウト・作成制作作業を行う。
13 25-26	文化祭 売品制作 ②		習得した様々な技法を活かして、作品を制作する。
14 27-28	文化祭 売品制作 ③		各々が選んだ技法を用いた作品を完成させる。
15 29-30	まとめ		実習を通して、モノづくりに関する様々なアプローチ方法を学び、作品制作に活かす。
その他 (授業に際しての注意点)	制作物の一部にデザインし、図案を考え落とし込む。日頃から、市場でどのようにハンドワークが施されているのか商品を限りなく多く目にして感性を養ってほしい。		

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程	ファッショントレーニング専攻科	1年		
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッショントレーニング業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。				
分 類	必修	○	選択		
種 別	流通・販売		授業方法		
授業科目	ファッショントレーニングビジネス知識 I		講義 ○ 演習 ○ 実習		
担当教員	横内 裕子		職業実践専門課程：企業との連携		
※実務家教員	○	小売業での接客経験と現場の知識技術をもとに、接客の基礎を検定合格を通して身につくよう指導。			
資格検定	一般財団法人日本ファッショントレーニング教育振興協会：ファッショントレーニング販賣能力検定3級				
授業概要	12月に受験する、ファッショントレーニング販賣能力検定試験3級の合格を目指とし、主に販売知識分野に特化して学ぶ。（商品知識分野は他の授業にて補填）「ファッショントレーニング販賣能力検定3級概論」として、ファッショントレーニングビジネスの基本知識となる内容を通じ、ファッショントレーニング業界で、消費者との最前線で働く販賣員の重要性を理解する。また、基礎的な計数知識を習得する。同時に、挨拶をはじめとした礼儀やマナーを身に付け、社会人として自信を持って行動できることを目指す。				
学習成果	① ファッショントレーニングビジネスの川下の仕事の重要性を理解する。 ② 計数知識を理解する。 ③ 12月の検定試験合格を目指す。 ※ 3級合格を通してファッショントレーニングビジネスの基礎を習得する。	成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1 定期試験結果 50 % 2 提出物/期限遵守 40 % 3 独創性/習熟度 % 4 意欲・授業態度 10 %		
使 用 材	●日本ファッショントレーニング教育振興協会 ファッショントレーニング販賣3 ●KFDオリジナルプリント配布 ●過去問題				

前期授業計画(4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	自己紹介・1章ファッション販売知識	小売業の流れと販売の基礎知識を理解し、元気よい挨拶を習慣とする。
2	3-4	5章マーケティング	マーケティングの概念と、その重要性を理解する。
3	5-6	6章販売スタッフの業務	川下に位置する販売員の業務について理解する。
4	7-8	A科目復習問題	授業で学んだことを実演、問題演習で復習することで定着させる。
5	9-10	2章ファッション販売技術	ファッション販売を通じて、購買心理や包装、贈答マナーを理解する。
6	11-12	4章売り場つくり	売り場づくりの重要性を理解する。
7	13-14	B科目復習問題	授業で学んだことを問題演習で復習することで定着させる。
8	15	過去問題演習、解説、復習、計数知識の理解・まとめ	授業で学んだことを問題演習で復習することで定着させる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程	ファッションデザイン専攻科	1年	
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。			
分類	必修	○	選択	
種別	配当年次	1年	学期	
授業科目	流通・販売	授業方法	講義	
担当教員	市場調査 I	授業時間数	△ 演習 実習	
※実務家教員	大古場 真由美	前期	15 後期 15 計 30	
資格検定	職業実践専門課程：企業との連携			
	○	アパレルメーカーでの実務経験で培った知識を伝授する。職業訓練指導員の資格を活かし効率よく技術を教える。また、国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級で取得した技術を活かし、基礎能力を高め、身につけさせる。		
		必修	選択	
授業概要	テーマとともに今、市場には何が出ているのか、何が流行っているのか、実際に現場に足を運び商品を手にとって見る。また、既製服の仕立てや素材を見ることにより実習につなげる。市場で売れているものを見極める力を付ける事を目標とし、福岡市の市場を知る。			
学習成果	① ソーイングで制作するアイテムの市場のデザインを見る。 ② 軽衣料を中心に市場で売れている商品をみる。 ③ 福岡市の市場を観察し、売れる商品を見極める力を付ける。 ※ 市場を見る事で感性を養う。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1 定期試験結果 2 提出物/期限遵守 3 独創性/習熟度 4 意欲・授業態度	
使用教材	● ファッション雑誌 ● コレクション雑誌 ● WWD (新聞) ● KFDオリジナル実習プリント配布			

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	市場調査とは	市場調査の定義と目的を理解し、手順・調査方法を学ぶ。情報誌を用いて説明し、理解を深める。
2	3-4	ワンピース リサーチ・企画表作成	ワンピースの構造、デザイン、素材、色、価格、縫製仕様を知る。
3	5-6	スカート リサーチ・企画表作成	スカートの構造、デザイン、素材、色、価格、縫製仕様を知る。
4	7-8	シャツ リサーチ・企画表作成	シャツの構造、デザイン、素材、色、価格、縫製仕様を知る。
5	9-10	文化祭作品に向けて、紺についてリサーチ	使用素材の現状調査と、企画に伴う参考デザインの収集。
6	11-12	軽衣料のアイテムデザインと素材リサーチ	使用素材の現状調査と、企画に伴う参考デザインの収集。
7	13-14	軽衣料のディテールリサーチ	使用素材の現状調査と、企画に伴う参考デザインの収集。
8	15	まとめ	市場調査してきた内容を見直し今後の制作物に活かす。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	市場調査	ジャケット・ブルゾンの構造、デザイン、素材、色、価格、縫製仕様を知る。
2	3-4	市場調査	ジャケット・ブルゾンの構造、デザイン、素材、色、価格、縫製仕様を知る。
3	5-6	市場調査	ジャケット・ブルゾンの構造、デザイン、素材、色、価格、縫製仕様を知る。
4	7-8	市場調査	スーツ・アンサンブルの構造、デザイン、素材、色、価格、縫製仕様を知る。
5	9-10	市場調査	スーツ・アンサンブルの構造、デザイン、素材、色、価格、縫製仕様を知る。
6	11-12	市場調査 スーツ	スーツ・アンサンブルの構造、デザイン、素材、色、価格、縫製仕様を知る。
7	13-14	市場調査 ナチュラル系ブランドについて	ナチュラル系ブランドのデザイン傾向、素材傾向と企画に伴う参考デザインの収集。
8	15	まとめ	市場調査してきた内容を見直し今後の討作物に活かす。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)			

授業科目等の概要																															
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 1年																														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モダリスト）を目指す。																														
分類	必修	<input checked="" type="radio"/>	選択		配当年次	1年	学期	通年	<input checked="" type="radio"/>	前期		後期																			
種別	流通・販売				授業方法	講義	<input checked="" type="radio"/>	演習	<input checked="" type="radio"/>	実習	<input checked="" type="radio"/>																				
授業科目	ビジネスマナー				授業時間数	前期	8	後期	8	計	16																				
担当教員	畠山 未来				職業実践専門課程：企業との連携																										
※実務家教員	<input checked="" type="radio"/>	他校講師経験、実務的マナー講師歴を基に、実践的なビジネスマナーへの知識・技術の教授。																													
資格検定																															
授業概要	ビジネスマナーを身につけ、必要なスキルを習得する。日常に浸透させ活用できる能力を身につける。																														
学習成果	① 人間的マナー（立ち振る舞い、挨拶など）を身につける。 ② ビジネスマナー社会人基礎を理解し実践的に活用する。 ③ 就活マナー面接の手法やスキルを習得する。 ※ 社会人に必要な「考え方・行動・技術」を習得する。	成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)		1	定期試験結果		80	%	2	提出物/期限遵守		%																			
使用教材	●KFDオリジナルプリント配布																														

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	マナーを学ぶ意義・重要性 言葉と態度	授業で学んだ事を浸透させ日常生活で活かす。
2	3-4	立ち居振る舞い・聴き方・話し方・報連相・まとめ	アルバイトや学校ですぐに実践し、成果を出す。
3	5-6	はがきの書き方・手紙の書き方・御礼状	実践で学んだ事を就職活動で活用出来る。
4	7-8	電話応対・アポイントの取り方	基本的な電話対応を学びアルバイトや学校などで、活用することによって就職に役立てる。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期授業計画（10月-3月）			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	自己分析・エントリーシート	自己分析をする手法を学び客観的に自分と向き合う事が出来る。
2	3-4	ビジネス文書（メールの送り方）添え状	メールとSNSの違いを知り、相手に失礼のないメールを送る事が出来る。
3	5-6	就活のマナー・注意点	実践で覚てないように自分でポイントを身につける。
4	7-8	グループディスカッション・まとめ	グループワークで自分の特徴を知る、肩を知る事で面接本音に生かす。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		特に模擬面接時には服装を適切なものにするよう注意する。全体を通して参加型授業のため、積極的に参加、発言出来るよう心がける。	

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 2年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。												
分類 種別	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期		後期	
授業科目	総論				授業方法	講義	○	演習	△	実習	△	△	
担当教員	服飾造形論Ⅱ 今村 大祐				授業時間数	前期	15	後期	15	計	30	○	
※実務家教員	○	今村：アパレル企業の営業企画での実務経験及び国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級取得にて培ってきた、実務性の高い服飾造形に関する知識を教授する。											
資格検定													必修
授業概要	プロダクト全般に関する仕事を理解して、製造工程・縫製方法に関する知識、縫製機器の取り扱い、服飾付属品関連知識、素材の種類や生地の特性に対応した裁断・芯貼り・縫製、また、補正に関する知識・技術を習得する。												
学習成果	①	衣服制作の完成度を高める為の知識と技術を養う。											
	②	効率的に衣服制作出来る方法を理解する。											
	③	仕様書を始めとする企画実務に必要不可欠な書類作成能力を養う。											
	※	衣服制作上の基礎知識を正確に習得する。											
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●文化ファッション大系 服飾関連専門講座① ●KFDオリジナル実習プリント配布												

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	カットソー：伸縮素材の知識（種類・特徴）裁断、芯貼り、印しつけ方法 【カットソー仕様書】	伸縮素材取り扱いへの知識習熟。市場のカットソーアイテムを調査する事が望ましい。
2	3-4	パンツ：アイテム知識、素材知識（種類・特徴・デザイン）【仕様書】	パンツ制作における知識・技術の習熟。市場のパンツを調査する事が望ましい。（市場調査と連動）
3	5-6	既製品仕立てのスーツ：素材の知識（薄手～中肉ウール）補正地直し・マーキング～裁断について	薄手～中肉ウールを主とした素材知識及び取り扱いについての知識の習熟。地直し～裁断工程についての知識・技術の習熟。
4	7-8	既製品仕立てのスーツ：芯地・裏地について・縫製仕様書	マシンメイドのジャケットに使用される副資材についての知識・技術の習熟。ジャケット縫製仕様についての知識・技術の習熟。
5	9-10	既製品仕立てのスーツ：ジャケット工程分析	マシンメイドのジャケットにおける縫製仕様についての知識・技術の習熟。
6	11-12	軽衣料仕様について薄手天然素材 仕様書	ナチュラル系婦人既製服料衣料についての仕様・使用される薄手天然素材についての知識習熟。及び工程分析についての知識習熟。（市場調査と連動）
7	13-14	軽衣料仕様について薄手天然素材 縫製工程分析	ナチュラル系婦人既製服料衣料についての仕様・使用される薄手天然素材についての知識習熟。及び工程分析についての知識習熟。（市場調査と連動）
8	15	まとめ	前期内に学んだことを包括的に復習し、まとめを行う。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは準備学習
1	1-2	ふらし仕立てのコートについて 厚手素材について 補正	ふらし仕立てのコートの仕様及び使用される厚手素材についての知識・技術の習得。市場の婦人服既製品付きコートを調査する事が望ましい。(市場調査と連動)
2	3-4	コート:素材の知識、裁断、芯貼り、印つけ、裏地、各種仕様	厚手素材の使用方法及び厚手素材アイテムでの準備工程・計資材選定およびポケット等ディテール選定についての知識・技術の習得。(市場調査と連動)
3	5-6	コート:ふらし仕立て、縫製仕様、工程分析	厚手素材を使用したふらし仕立てコートの縫製仕様・縫製工程での工程分析についての知識・技術の習得。
4	7-8	クリエーション作品(特殊素材について)素材知識、準備工程	クリエーション作品で使用するの素材取り扱いについての知識・技術の習得。市場のブランドにおける、参考となる特殊素材アイテムの仕様等の調査を行う事が望ましい。(市場調査と連動)
5	9-10	クリエーション作品(特殊素材について)マーキング・裁断する際の留意点	クリエーション作品で使用するの素材取り扱いについての知識・技術の習得。市場のブランドにおける、参考となる特殊素材アイテムの仕様等の調査を行う事が望ましい。(市場調査と連動)
6	11-12	クリエーション作品(特殊素材について)【作品毎仕様書】	クリエーション作品として制作するアイテム仕様についての知識・技術の習得。市場のブランドにおける、参考となるアイテムの仕様等の調査を行う事が望ましい。(市場調査と連動)
7	13-14	クリエーション作品(特殊素材について)【作品毎工程分析】	クリエーション作品として制作するアイテム仕様についての知識・技術の習得。市場のブランドにおける、参考となるアイテムの仕様等の調査を行う事が望ましい。(市場調査と連動)
8	15	まとめ	集めた情報を適切にまとめ、総集、復習する事で理解度を高める。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		アパレル企業の企画職に必要不可欠な加工出しについての基礎的な能力の習熟を目指すため、提出書類の不備に対するチェックの徹底を、各人に行えるよう意識を高める。	

授業科目等の概要																																
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 2年																															
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。																															
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年		前期	○	後期																				
種別	総論			授業方法		講義	△	演習		実習	○																					
授業科目	アパレル素材Ⅱ			授業時間数		前期	15	後期		計	15																					
担当教員	今村 大祐			職業実践専門課程：企業との連携																												
※実務家教員	○	今村：アパレル企業の営業企画での実務経験及び国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級取得にて培ってきた、実務性の高い服飾形状に関する知識を教授する。																														
資格検定																																
必修																																

授業概要	アパレル素材の中で、主にテキスタイル染色における基礎知識の理解を目的とする。代表的な衣料用素材に対し市販の材料を使って実際に染色を行う。様々な染料や助剤を使用し、染色技法を試すことで知識・技術を習得する。ファッショング衣料としてのテキスタイルの総理解を深める。												
学習成果	① 各素材に適した染料の選定能力の習熟。 ② 各染料における適切な染色方法への理解及び取り扱い技能の習熟。 ③ 各種助材の役割への理解及び取り扱い技能の習熟。 ※ イメージに沿う染色を行うスキルの習得。												
成績評価方法	(右記の評価を基準に平均点で算出)												
定期試験結果	1	50	%										
提出物/期限遵守	2	20	%										
独創性/習熟度	3	15	%										
意欲・授業態度	4	15	%										
使用教材	●文化ファッショング大系 服飾関連専門講座① ●KFDオリジナル実習プリント配布												

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)				授業習熟度のねらいまたは、準備学習			
1	1-2	染料の歴史、染色室使用方法、染料と染色方法		染色についての基礎知識の習熟。火の取り扱いをはじめとした染色工程への理解習熟。染色の観点で見た素材知識への理解習熟。			
2	3-4	天然染料、合成染料、染色条件（温度・助剤）、廃棄方法		各種染料、助材の利用、処理方法への理解習熟。			
3	5-6	布目の目方を量る・染液の量について		適切な染料の取り扱い方法への理解習熟。			
4	7-8	各種化学染料を使用した染め方、染色テスト		各化学染料への理解及び取り扱い技能の習熟。			
5	9-10	型染め用のデザインを描く		型抜き染についての知識習得及び抜染技術の習熟。使用可能なデザインを用意しておく事が望ましい。			
6	11-12	型染め：浸染用防染糊を使用した型抜き染		型抜き染についての知識習得及び染色技術の習熟。			
7	13-14	天然染料（植物染料）媒染（媒染剤：鉄・アルミ・錫・チタン・銅）浸染		草木染めに代表される植物染料を使用した染色に関する知識習得及び媒染技術の習熟。			
8	15	まとめ		資料収集を行い、反復練習可能なテンプレートを作成する。			
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
その他 (授業に際しての注意点)		様々な表現をサンプルから理解し、情報の整理を行い自らのデザイン発想のストックにする。次年度クリエーションを含め、コンテストに向けた企画を立案する。					

授業科目等の概要																														
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 2年																													
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モダリスト）を目指す。																													
分類	必修	○	選択	配当年次	2年	学期	通年	○	前期	後期																				
種別	デザイン					授業方法	講義	△	演習	△	実習	○																		
授業科目	服飾デザインⅡ					授業時間数	前期	45	後期	60	計	105																		
担当教員	今村 大祐・熊谷 朋美・宇土 ユカ					職業実践専門課程：企業との連携					○																			
※実務家教員	○	今村：アパレル企業の営業企画での実務経験及び国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級取得にて培ってきた、実務性の高い服飾造形に関する知識を教授する。																												
資格検定																														
授業概要	株式会社ハードの商品企画やスーツの製品企画を行う。就職活動で自身が着用するスーツの企画書を作成する。また自身のイメージをどう表現していくか探究し、クリエーションショーに向けてデザインを考え、ポートフォリオを作成する。デザインをすることに重点を置き、幅広い柔軟なアイデア発想を強化する。																													
学習成果	① クリエイティブかつ実現可能なデザイン発想力の習熟。 ② イメージを視覚的及び文章で伝えられる表現力の習熟。 ③ コンセプトからデザインを形にしていくまでの設計力の習熟。 ※ 他者に伝わる客観性のあるデザイン力を習得する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		%	2	提出物/期限遵守		40	%																		
使用教材	●文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑨ ●各種雑誌類 ●KFDオリジナル実習プリント配布																													

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1 1-3	3年次クリエーション企画に向けてコンセプト・テーマ①		クリエーション企画を行うにあたり、自分の興味や知識、時事的な事象を読みコンセプトの選定を行う。
2 4-6	3年次クリエーション企画に向けてリサーチ①		コンセプトから連想されるキーワードを、連想的に抽出し、各事柄に対してのリサーチを行う。
3 7-9	3年次クリエーション企画に向けてコンセプト・テーマ②		リサーチした内容をもとに、主軸にする事柄に対し、どのようにアプローチしていくかを考えコンセプトの更なる深堀を行う。
4 10-12	ファッショング色彩：流行配色		クリエーション企画を行うにあたり、自分の興味や知識、時事的な事象を読みコンセプトの選定、及び深堀りを行う。
5 13-15	3年次クリエーション企画に向けてリサーチ②		コンセプトに対し素材、技法、デザインの観点から、適する類似したものを、ファッショングに限らず幅広い分野からリサーチする。特に素材表現に関しては
6 16-18	3年次クリエーション企画に向けてイメージマップ		企画したものを見たときに、魅力的に表現できることを意識して表現力、構成能力を習熟する。
7 19-21	株式会社ハード商品企画1		既存のブランドへの商品提案を行う客観性を育成する。職業実践専門課程を行うに伴う企業訪問は事前に行うものとする。
8 22-24	株式会社ハード商品企画2		既存のブランドへの商品提案を行う客観性を育成する。職業実践専門課程を行うに伴う企業訪問は事前に行うものとする。
9 25-27	卒業記念展に向けて プレゼンテーション・検討・参考資料制作		企画したものを見たときに、魅力的に表現できることを意識して表現力、構成能力を習熟する。3年次クリエーション企画より派生。
10 28-30	3年次クリエーション企画に向けてトレンドマップ		提案した企画から具体的な各種設定を決定する能力を育成する。トレンド分析を行い、企画の有用性についての裏付けをとる実践的能力の習熟をする。
11 31-33	卒業記念展に向けてグループワーク①		プレゼンテーションへを経て選出された企画へ参画し、2年次卒業記念展のグループワーク①に向けてブラッシュアップを行う。
12 34-36	卒業記念展に向けてグループワーク②		グループで企画を提案するために、様々な視点から再度リサーチを行う。特に使用素材に関しては具体性、オリジナリティの追求を重視する。
13 37-39	3年次クリエーション企画に向けて造形探求・ドローイング		リサーチ・制作したテキスタイル表現・造形的表現から、テーマに沿ったファッショングデザイン圖を制作する。採用量を超えるラフから抽出することが望ましい。
14 40-42	株式会社ハードロゴデザイン		仮想ブランド立ち上げに伴うCIデザインを行い、包括的提案能力の習熟を行う。アパレルに限らない企業ロゴの調査研究を行う事が望ましい。
15 43-45	卒業記念展に向けて検討 まとめ		グループワーク実働に向けて、コンセプトの伝達及びテキスタイルを持ち寄り具体化に向けての表現力及びコミュニケーション能力の習熟。前期に学んだことを包括的に復習しまとめを行う。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは準備学習
1	1-4	卒業記念展に向けてMAP製作	提案した企画を視覚的に伝える表現力を習熟する。制作中は随時グループメンバー各員での意思伝達を行う。
2	5-8	卒業記念展に向けて参考資料制作	提案した企画の有用性の裏付けとなる資料収集及び編集能力を習熟する。制作中は随時グループメンバー各員での意思伝達を行う。
3	9-12	卒業記念展に向けて素材まとめ1	提案した企画で使用するテキスタイルのオリジナリティとコストを含めた実現可能性双方を踏みて決定する実行力を習熟する。制作中は随時グループメンバー各員での意思伝達を行う。
4	13-16	卒業記念展に向けて素材まとめ2	提案した企画で使用するテキスタイルのオリジナリティとコストを含めた実現可能性双方を踏みて決定する実行力を習熟する。制作中は随時グループメンバー各員での意思伝達を行う。
5	17-20	卒業記念展に向けてコンセプト・素材 デザイン・色彩計画検討1	決定したコンセプト、素材をもとに色彩計画、デザインを考える客観性のある発想力を習熟する。制作中は随時グループメンバー各員での意思伝達を行う。
6	21-24	卒業記念展に向けてコンセプト・素材 デザイン・色彩計画検討2	決定したコンセプト、素材をもとに色彩計画、デザインを考える客観性のある発想力を習熟する。制作中は随時グループメンバー各員での意思伝達を行う。
7	25-28	卒業記念展に向けて最終デザイン決定	各員のデザインバランスを踏みてデザインの決定をするコミュニケーション能力の習熟を行う。制作中は随時グループメンバー各員での意思伝達を行う。
8	29-32	卒業記念展に向けて資料まとめ	各員の理解を共有のものとするためのコミュニケーション能力と表現力を習熟する。制作中は随時グループメンバー各員での意思伝達を行う。
9	33-36	卒業記念展に向けてコーディネート物を含めた色彩計画1	制作物に対して適切なコーディネート及びグループとしてのバランスをとるためにデザイン力、觀察力の習熟を行う。制作中は随時グループメンバー各員での意思伝達を行う。
10	37-40	卒業記念展に向けてコーディネート物を含めた色彩計画2	制作物に対して適切なコーディネート及びグループとしてのバランスをとるためにデザイン力、觀察力の習熟を行う。制作中は随時グループメンバー各員での意思伝達を行う。
11	41-44	3年次クリエーション企画に向けて 検討/クリエーションMAP制作1	3年次クリエーション作品として制作するそれぞれの企画についてのデザイン発想力・コミュニケーション能力・客観的視点の習得。伝達のための資料を編集しておく事が望ましい。
12	45-48	3年次クリエーション企画に向けて 検討/クリエーションMAP制作2	3年次クリエーション作品として制作するそれぞれの企画についてのデザイン発想力・コミュニケーション能力・客観的視点の習得。伝達のための資料を編集しておく事が望ましい。
13	49-52	3年次クリエーション企画に向けて 検討/クリエーションMAP制作3	3年次クリエーション作品として制作するそれぞれの企画についてのデザイン発想力・コミュニケーション能力・客観的視点の習得。伝達のための資料を編集しておく事が望ましい。
14	53-56	3年次クリエーション企画に向けて プレゼンテーション	3年次クリエーション作品として制作するそれぞれの企画についてのデザイン発想力・コミュニケーション能力・客観的視点の習得。伝達のための資料を編集しておく事が望ましい。
15	57-60	まとめ	2年次卒業記念展企画から3年次クリエーション作品企画へのスムーズなノウハウの移行を行うため、面談を含めたデザイン発想のまとめを行う。
その他 (授業に際しての注意点)		グループワークが多くなるため、資料の保管・管理、製作にあたる経費の管理、制作物の管理の徹底を行う事。また、徹底した報告・連絡・相談を心がけ、グループワークがスムーズに行えるよう細やかな修正を行える実務的実行力、注意力を持つよう心がける必要がある。また、3年次クリエーション企画検討では個別面談を行い表現力、伝達力の拡充を図る。また、制作における全エスキースの保管・編集を行うことが望ましい。	

授業科目等の概要																													
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 2年																												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。																												
分類	必修	<input checked="" type="radio"/>	選択		配当年次	2年	学期	通年	<input checked="" type="radio"/>	前期		後期																	
種別	デザイン					授業方法	講義	<input checked="" type="radio"/>	演習	<input checked="" type="radio"/>	実習	<input checked="" type="radio"/>																	
授業科目	ドローイングⅡ					授業時間数	前期	30	後期	30	計	60																	
担当教員	舞田 章子					職業実践専門課程：企業との連携																							
※実務家教員	<input checked="" type="radio"/>	他校講師ならびに自身のコンクール入賞経験を経て評価を得ている能力を基に、ドローイングの表現力を各種コンテストに向け応用的に伝授する。																											
資格検定																													
授業概要	イメージしたデザインを視覚的に表現することを目的とし、一年次に学んだ基本的なテクニックを踏まえて様々な画材での着彩方法を学ぶ。学生の感性を磨く為に、各種コンテストへの応募・入選を目指とする。※コンテスト作品への対応を行う為、前後期イレギュラーな回数で行うが、通年で換算することとする。																												
学習成果	① 適切なアパレルデザイン画を描けるドローイング能力の習熟。 ② 他者に伝わるデザイン画を描ける表現力の習熟。 ③ 訴求力の高いデザイン画を描けるスキル及びデザイン発想力の習熟。 ※ 平面画を含む、デザイナーとして実務に必要なスキルの習得。					成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%																			
使用教材	●KFDオリジナル実習プリント配布 ●ドローイングセット ●各種コレクション雑誌						2	提出物/期限遵守		80	%																		
		3	独創性/習熟度		10	%																							
		4	意欲・授業態度		10	%																							

前期授業計画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	プロポーション表現方法/トレーニング/YKKファスニングアワード下絵	より表現力・訴求力の高いデザイン画を描くための基礎知識の習熟。コンテスト目に計画的に行える戦略的デザイン発想力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。
2	3-4	YKKファスニングアワード 下絵・着彩	機能性を含めたデザインの提案を行える実務的ドローイング能力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。
3	5-6	YKKファスニングアワード 仕上げ	機能性を含めたデザインの提案を行える実務的ドローイング能力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。
4	7-8	ナゴヤファッションコンテスト2023下絵	デザイン画として訴求力の高い提案を行えるドローイング能力の習熟。説明性の高いデザイン画を描ける構成力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。
5	9-10	ナゴヤファッションコンテスト2023着彩	デザイン画として訴求力の高い提案を行えるドローイング能力の習熟。説明性の高いデザイン画を描ける構成力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。
6	11-12	ナゴヤファッションコンテスト2023仕上げ	デザイン画として訴求力の高い提案を行えるドローイング能力の習熟。説明性の高いデザイン画を描ける構成力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。
7	13-14	日暮里ファッションデザインコンテスト下絵	オリジナリティの高い提案を行えるドローイング能力の習熟。説明性の高いデザイン画を描ける構成力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。
8	15-16	日暮里ファッションデザインコンテスト着彩	オリジナリティの高い提案を行えるドローイング能力の習熟。説明性の高いデザイン画を描ける構成力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。
9	17-18	日暮里ファッションデザインコンテスト仕上げ	オリジナリティの高い提案を行えるドローイング能力の習熟。説明性の高いデザイン画を描ける構成力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。
10	19-20	文化服装学院連鎖校協会ファッションデザイン画コンクール 下絵	トレンド性・構成的バランス・デザイン画としてのクオリティ・テキスタイルの再現性等を考慮したデザイン画を描けるドローイング能力の習得。基本となるコンセプトを各自考えてくる。
11	21-22	文化服装学院連鎖校協会ファッションデザイン画コンクール 着彩	トレンド性・構成的バランス・デザイン画としてのクオリティ・テキスタイルの再現性等を考慮したデザイン画を描けるドローイング能力の習得。基本となるコンセプトを各自考えてくる。
12	23-24	文化服装学院連鎖校協会ファッションデザイン画コンクール 仕上げ	トレンド性・構成的バランス・デザイン画としてのクオリティ・テキスタイルの再現性等を考慮したデザイン画を描けるドローイング能力の習得。基本となるコンセプトを各自考えてくる。
13	25-26	文化服装学院連鎖校協会ファッションデザイン画コンクール 下絵	トレンド性・構成的バランス・デザイン画としてのクオリティ・テキスタイルの再現性等を考慮したデザイン画を描けるドローイング能力の習得。基本となるコンセプトを各自考えてくる。
14	27-28	全国服飾学校ファッション画コンクール 下絵	指定された感性で魅せるデザイン画を描ける実務的ドローイング能力の習熟。指定された感性についての理解をコレクション雑誌等から深めておく事が望ましい。
15	29-30	全国服飾学校ファッション画コンクール 着彩 まとめ	指定された感性で魅せるデザイン画を描ける実務的ドローイング能力の習熟。指定された感性についての理解をコレクション雑誌等から深めておく事が望ましい。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	全国服飾学校ファッショング画コンクール 仕上げ	指定された感性で魅力的なデザイン画を描ける実践的ドローイング能力の習熟。指定された感性についての理解をコレクション雑誌等から深めておく事が望ましい。
2	3-4	制作スーツデザイン画 下絵	制作したアイテムを正しく表現するためのドローイング能力の習熟。制作したアイテムのシルエット・テキスタイル・カラー等を仕様を含め正しく理解しておく事が望ましい。
3	5-6	制作スーツデザイン画 着彩	制作したアイテムを正しく表現するためのドローイング能力の習熟。制作したアイテムのシルエット・テキスタイル・カラー等を仕様を含め正しく理解しておく事が望ましい。
4	7-8	制作スーツデザイン画 仕上げ	制作したアイテムを正しく表現するためのドローイング能力の習熟。制作したアイテムのシルエット・テキスタイル・カラー等を仕様を含め正しく理解しておく事が望ましい。
5	9-10	制作コートデザイン画 下絵	制作したアイテムを正しく表現するためのドローイング能力の習熟。制作したアイテムのシルエット・テキスタイル・カラー等を仕様を含め正しく理解しておく事が望ましい。
6	11-12	制作コートデザイン画 着彩	制作したアイテムを正しく表現するためのドローイング能力の習熟。制作したアイテムのシルエット・テキスタイル・カラー等を仕様を含め正しく理解しておく事が望ましい。
7	13-14	制作コートデザイン画 仕上げ	制作したアイテムを正しく表現するためのドローイング能力の習熟。制作したアイテムのシルエット・テキスタイル・カラー等を仕様を含め正しく理解しておく事が望ましい。
8	15-16	クリエーション制作アイテムデザイン画 下絵	制作物について魅力的に描くドローイング力、集団の中で注目を集める為の訴求力、構成を含む表現力の習熟。制作企画のコンセプトを正しく理解し、グループ内の意思共有を事前に行っておく。
9	17-18	クリエーション制作アイテムデザイン画 着彩1	制作物について魅力的に描くドローイング力、集団の中で注目を集める為の訴求力、構成を含む表現力の習熟。制作企画のコンセプトを正しく理解し、グループ内の意思共有を事前に行っておく。
10	19-20	クリエーション制作アイテムデザイン画 着彩2	制作物について魅力的に描くドローイング力、集団の中で注目を集める為の訴求力、構成を含む表現力の習熟。制作企画のコンセプトを正しく理解し、グループ内の意思共有を事前にに行っておく。
11	21-22	クリエーション制作アイテムデザイン画 仕上げ1	制作物について魅力的に描くドローイング力、集団の中で注目を集める為の訴求力、構成を含む表現力の習熟。制作企画のコンセプトを正しく理解し、グループ内の意思共有を事前にに行っておく。
12	23-24	クリエーション制作アイテムデザイン画 仕上げ2	制作物について魅力的に描くドローイング力、集団の中で注目を集める為の訴求力、構成を含む表現力の習熟。制作企画のコンセプトを正しく理解し、グループ内の意思共有を事前にに行っておく。
13	25-26	ゼンタングル	特異な世界観をドローイングで表現するための技術の習熟。
14	27-28	次年度コンクールに向けて	様々な表現をサンプルから理解し、情報の整理を行い自らのデザイン発想のストックにする。次年度クリエーションを含め、コンテストに向けた企画を立案する。
15	29-30	まとめ	本過程での各制作物をまとめ、次年度に活かすための計画性を得る。
その他 (授業に際しての注意点)			

授業科目等の概要																
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 2年															
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。															
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期		後期				
種別	パソコン				授業方法	講義	△	演習	○	実習						
授業科目	グラフィックⅡ				授業時間数	前期	30	後期	30	計	60					
担当教員	城代 蘭				職業実践専門課程：企業との連携											
※実務家教員	○	アパレル企業の営業企画での実務経験及び国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級取得にて培ってきた、実務性の高い服飾造形に関する知識を教授する。														
資格検定												必修				
授業概要	Adobe Illustratorの基本操作を前期で習得する。また、画像をスキャンしAdobe Photoshopの復習も兼ねる。スーツを写真撮影しデータ化する。また、株式会社ハードの職業実践で制作した商品の営業台帳・ロゴを制作する。服飾デザインと連動し、データ化した際に魅力になる資料作りを目指す。															
	① Adobe Illustratorの基本操作を身につける。			成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)			1	定期試験結果		%						
学習成果	② 見やすいレイアウト力を身につける。			2 提出物/期限遵守			50	% ③ 資料制作する、グラフィック技術を高める。		%						
	※ 効果的なグラフィックデザインの可能性を広げる。			3 独創性/習熟度			40	% ④ 意欲・授業態度		10	%					
使用教材	●KFDオリジナル実習プリント配布															

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	始めに・余白の取り方	始めに1年間の目標を示す。用紙のJISサイズを理解し、余白を作るガイドの作り方をマスターする。
2	3-4	図形トレース（パス）ベジエ曲線1	ペンツールの使用方法。ロエベのロゴのトレースと水野学氏デザインのくまもんをトレースし、線の引き方・レイヤーを理解する。
3	5-6	図形トレース（パス）ベジエ曲線2	ペンツールの使用方法。ロエベのロゴのトレースと水野学氏デザインのくまもんをトレースし、線の引き方・レイヤーを理解する。
4	7-8	パスファインダを理解する	パスファインダを理解することにより、図形の可能性を広げる。
5	9-10	縫製仕様をペンツールで書いてみよう1	ペンツールの復習を兼ねて、縫製仕様をAdobe Illustratorで書く。
6	11-12	縫製仕様をペンツールで書いてみよう2	ペンツールの復習を兼ねて、縫製仕様をAdobe Illustratorで書く。
7	13-14	ヌードボディ制作（6ブロック）	ヌードボディを制作し平面図の土台を作ると共に、線の引き方の反復練習をする。
8	15-16	平面画練習（Tシャツ）	Adobe Illustratorを用いた平面図を描く練習。
9	17-18	平面画練習（ブラウス）	Adobe Illustratorを用いた平面図を描く練習。
10	19-20	Adobe Photoshop復習 画像修正1	Adobe Photoshopで画像の修正を習得し、写真画像を美しくすることを学ぶ。
11	21-22	Adobe Photoshop復習 画像修正2	Adobe Photoshopで画像の修正を習得し、写真画像を美しくすることを学ぶ。
12	23-24	Adobe PhotoshopからAdobe Illustratorへ画像配置	フォトショップでサイズを変更したものをAdobe Illustratorに配置してみよう。
13	25-26	立体物を作ってみよう	3Dの回転体の立体物を制作し文字も配置してみよう。
14	27-28	企画書制作 スーツを制作したあとがき作成	スーツを制作したあとがきを作成しレイアウトの構成を考える。
15	29-30	企画書制作 スーツ撮影	一眼レフカメラを使用し制作したスーツの撮影をする。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	企画書制作 スーツ撮影データの資料化1	前回の撮影した写真をAdobe Photoshopで修正加工し資料にまとめる。
2	3-4	企画書制作 スーツ撮影データの資料化2	前回の撮影した写真をAdobe Photoshopで修正加工し資料にまとめる。
3	5-6	ハードさんのロゴづくり1	ハードさんのロゴを制作。ブランドのテイストに合ったロゴづくりを行う。完成したものは全校生徒から人気投票を行う。
4	7-8	ハードさんのロゴづくり2	ハードさんのロゴを制作。ブランドのテイストに合ったロゴづくりを行う。完成したものは全校生徒から人気投票を行う。
5	9-10	企画書制作 コレクション分析1	最新のコレクション情報を1枚にまとめる。
6	11-12	企画書制作 コレクション分析2	最新のコレクション情報を1枚にまとめる。
7	13-14	企画書制作 文化祭制作物作品まとめ1	文化祭で制作した作品の資料を制作する。
8	15-16	企画書制作 文化祭制作物作品まとめ2	文化祭で制作した作品の資料を制作する。
9	17-18	企画書制作 表紙・裏表紙デザイン1	2年次で制作した資料をまとめるファイルの顔となる表紙・裏表紙デザインを作成。
10	19-20	企画書制作 表紙・裏表紙デザイン2	2年次で制作した資料をまとめるファイルの顔となる表紙・裏表紙デザインを作成。
11	21-22	企画書制作 卒業記念展作品のテーマコンセプトのまとめ1	卒業記念展で制作するコンセプトやテーマをまとめ、紙面上で伝わるレイアウトを学ぶ。
12	23-24	企画書制作 卒業記念展作品のテーマコンセプトのまとめ2	卒業記念展で制作するコンセプトやテーマをまとめ、紙面上で伝わるレイアウトを学ぶ。
13	25-26	卒業記念展作品のエントリーシートの作成1	卒業記念展に向けて、エントリーシートを作成し審査員へ向けて伝わるデザインレイアウトを考える。
14	27-28	卒業記念展作品のエントリーシートの作成2	卒業記念展に向けて、エントリーシートを作成し審査員へ向けて伝わるデザインレイアウトを考える。
15	29-30	企画書制作 まとめ	企画書のファイル制作、まとめ。
その他 (授業に際しての注意点)		授業外でもAdobe Illustratorを使用することにより上達が見込める。また、常に雑誌などからレイアウト構成を見ることにより、感性も伸ばすことが出来る。	

授業科目等の概要																													
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 2年																												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。																												
分類	必修	○	選択	配当年次	2年	学期	通年	○	前期	○	後期																		
種別	パソコン					授業方法	講義	△	演習	○	実習	△																	
授業科目	アパレルCAD I					授業時間数	前期	30	後期	30	計	60																	
担当教員	白瀬 由佳理					職業実践専門課程：企業との連携																							
※実務家教員	○	アパレル企業で培ったCADパターンナーの実務を活かし、実務性の高いアパレルCAD操作方法を教授する。																											
資格検定																													
授業概要	東レクレアコンポのソフトを使用しアパレルCADの基本操作の講義。主に原型操作・スカートのデザイン展開をしながらパターンマジックのメニューの基本操作を習得する。後期からは前期で習得したメニューを使用して、自ら企画したSKの作図をする。又それに準じた、マーキング・工程分析書・縫製仕様書を作成し工場に送り出す前の作業の流れを把握する。																												
学習成果	① 東レクレアコンポのアパレルCADの基本操作を身につける。 ② パターンを理解した操作方法を覚えていく。 ③ アパレルCADに慣れ、工業用パターンを作図できるようになる。 ※ 手引きより早く操作できるアパレルCADに慣れ基本操作を習得する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		%	2	提出物/期限遵守		40	%																	
使用教材	●KFDオリジナル実習プリント配布																												

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	アパレルCADとは	東レクレアコンポのアパレルCADソフトの導入。線の引き方から理解をする。
2	3-4	ダーツの移動1	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
3	5-6	ダーツの移動2	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
4	7-8	ダーツの移動3	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
5	9-10	ダーツの移動4	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
6	11-12	ダーツの移動5	ダーツ展開4までに使用した操作方法を復習しながら個人で作業を進める。ここで基本操作である線の引き方から、展開の一部をマスターする。
7	13-14	タイトSKからセミタイトSKへ展開	タイトスカートの展開で基本操作をより理解させる。パターンチェックもここで初めて操作し覚える。
8	15-16	セミタイトSKからプリーツSKへ展開1	切り替えがあるパターンを制作し、プリーツを入れる操作を理解する。
9	17-18	セミタイトSKからプリーツSKへ展開2	切り替えがあるパターンを制作し、プリーツを入れる操作を理解する。
10	19-20	タイトSKからゴアードSKへ展開	フレアを入れる別の方法を把握し、ゴアードスカートへ展開する。
11	21-22	タイトSKからマーメイドSKへ展開1	切り替え線をコピーし、素早く作図できる方法を習得し、パターンチェックのスキルを上げる。
12	23-24	タイトSKからマーメイドSKへ展開2	切り替え線をコピーし、素早く作図できる方法を習得し、パターンチェックのスキルを上げる。
13	25-26	グレーディングまとめ	東レクレアコンポのグレーディングを使用し、タイトスカートのサイズ展開をしてみる。
14	27-28	確認テスト対策1	これまでのCADの基本操作を反復学習をし、より理解を深めさせる。
15	29-30	確認テスト対策2・まとめ	これまでのCADの基本操作を反復学習をし、より理解を深めさせる。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	確認テスト	今までの理解度を把握する。プリントも見ずテ스트をすることで、苦手な部分も把握できる。
2	3-4	確認テスト 評価復習・裏地のパターン作製	確認テストで間違った部分を把握し、理解を深める。表地のパターンから、コピーし裏地パターンの展開を理解する。
3	5-6	スカートデザイン 平面図の作成	CADスカートの平面図を描く。そのデータは仕様書等Adobe Illustratorに反映する。
4	7-8	タイトスカートから展開 ファーストパターン1	オリジナルスカートをタイトスカートから展開しCADで作図する。
5	9-10	タイトスカートから展開 ファーストパターン2	オリジナルスカートをタイトスカートから展開しCADで作図する。
6	11-12	タイトスカートから展開 ファーストパターン3	オリジナルスカートをタイトスカートから展開しCADで作図する。
7	13-14	タイトスカートから展開 ファーストパターン4	オリジナルスカートをタイトスカートから展開しCADで作図する。
8	15-16	工業用パターン作図 縫い代付までの手順	縫い代付けの方法を学ぶ。
9	17-18	タイトスカートから展開 工業用パターン1	スカートの工業用パターンを作成。
10	19-20	タイトスカートから展開 工業用パターン2	スカートの工業用パターンを作成。
11	21-22	タイトスカートから展開 工業用パターン3 出力	スカートの工業用パターンを作成。
12	23-24	スカート マーキング	東レクレアコンボのマーカーマジックを使用し、無駄なくマーキングをする。操作方法も理解させる。
13	25-26	スカート 縫製仕様書1	Adobe Illustratorを用い仕様書を作成する。
14	27-28	スカート 縫製仕様書2	Adobe Illustratorを用い仕様書を作成する。
15	29-30	パターン枚数作成(Excel) まとめ	Excelを用いてパターン枚数表を作成。企画書データの最終打ち込み。
その他 (授業に際しての注意点)		パソコンに操作に慣れた学生は、やや習得が早く見受けられるが、パターンの基礎能力が基となるためパターンマークリングを理解した上でCADを操作することが好ましい。確認テストの練習を沢山することにより、より習熟度が高くなる。	

授業科目等の概要																	
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 2年																
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッショニエ界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。																
分類 種別	必修	○	選択	配当年次	2年	学期	通年	○	前期		後期						
授業科目	服飾造形				授業方法	講義	○	演習	△	実習	△						
担当教員	パターンメーキングII 今村 大祐				職業実践専門課程：企業との連携				計 405								
※実務家教員	○	今村：アパレル企業の営業企画での実務経験及び国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級取得にて培ってきた、実務性の高い服飾造形に関する知識を教授する。															
資格検定	一般財団法人日本ファッション教育振興協会：パターンメーキング技術検定試験2級								必修	○	選択						
授業概要	人体の構造、体形を理解して、服種別・シルエット各種のパターンメーキングを習得する。また素材に応じて、ゆとりや厚み分量を考慮したパターン展開法を身に付け、生産に向けた量産パターン（縫い代付け、合印、グレーディング）の知識・技術を習得する。																
学習成果	① アパレル企業パターンナーに必要な基礎的技術の習熟。 ② 縫製、及びテキスタイルと連動した造形・仕様への理解習熟。 ③ 企画者としての基礎的実務能力を習得する。 ※ 衣服の制作及び他カリキュラムとの連動成果が得られる。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果 80 %		2	提出物/期限遵守 10 %		3	独創性/習熟度 %						
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●パターンメーキング技術検定試験2級ガイドブック																

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1 1-14 カットソー：縮尺作図・実物作図 パンツ：縮尺作図			ニット素材平面作図への理解習熟。より立体的な下衣の平面作図への理解習熟。イメージするニット素材の調査及び準備。
2 15-28 パンツ：実物作図、型出し、補正、パターン修正、工業用パタン			より立体的な下衣の平面作図への理解。各種ポケット平面作図、構造・仕様への理解習熟。イメージするテキスタイルの調査及び準備。
3 29-42 ジャケット：身頃各種（三面構成：マニピュレーション、四面構成）			テーラードジャケットを基本とする平面作図への理解習熟。重衣料展開作図への理解習熟。イメージするテキスタイルの調査及び準備
4 43-56 ジャケット：衿各種（テーラード、剣衿、ショール、変形）			テーラードジャケットを基本とする各種ディテールの平面作図への理解習熟。
5 57-70 ジャケット：袖各種（2枚袖、1枚半袖、裁ち出し袖、ラグラン）パターンメーキング技術検定試験2級筆記対策			テーラードジャケットを基本とする各種ディテールの平面作図への理解習熟。パターンメーキング技術検定試験2級筆記対策を理論問題、製図問題に対し恒常的に行う。
6 71-84 ジャケット：グレーディング（身頃、衿）パターンメーキング技術検定試験2級筆記対策			基本的なグレーディング技術への理解習熟。パターンメーキング技術検定試験2級筆記対策を理論問題、製図問題に対し恒常的に行う。
7 85-98 ジャケット・スカート：マシンメイド工業用パターン講義 パターンメーキング技術検定試験2級筆記対策			より効率的な既製服仕様（マシンメイド）ジャケットの平面作図及び仕様への理解習熟。パターンメーキング技術検定試験2級筆記対策を理論問題、製図問題に対し恒常的に行う。
8 99-112 デザインジャケット：縮尺作図 パターンメーキング技術検定試験2級筆記対策			応用的な既製服仕様（マシンメイド）ジャケットの平面作図及び仕様への理解習熟。パターンメーキング技術検定試験2級筆記対策を理論問題、製図問題に対し恒常的に行う。
9 113-126 デザインジャケット：実物作図、型出し パターンメーキング技術検定試験2級筆記対策			応用的な既製服仕様（マシンメイド）ジャケットの平面作図及び仕様への理解習熟。パターンメーキング技術検定試験2級筆記対策を理論問題、製図問題に対し恒常的に行う。
10 127-140 デザインジャケット：補正、パターン修正、工業用パターン制作			応用的な既製服仕様（マシンメイド）スーツの平面作図及び仕様への構成力の習熟。
11 141-154 パンツ：縮尺作図（デザイン各種）			パンツのスローパーから展開するアパレルパターンメーキング技術の理解習熟。
12 155-168 職業実践専門課程取組作品 縮尺作図～実物作図～型出し パターンメーキング技術検定試験2級実技対策			実践的な婦人既製服の平面作図への理解及びデザイン展開からの応用力の習得。ナチュラル系婦人既製服へのディテール・仕様習熟。パターンメーキング技術検定試験2級実技対策をトライアル形式で行う。
13 169-182 職業実践専門課程取組作品 パターン修正～工業用パターン作成 パターンメーキング技術検定試験2級実技対策			実践的な婦人既製服の平面作図への理解及びデザイン展開からの応用力の習得。パターンメーキング技術検定試験2級実技対策をトライアル形式で行う。
14 183-196 前期試験対策			半期を通して得た知識、技術を反復練習し、パターンメーキングにおける基礎能力・応用力を高める。時間内に仕事を行う設計力の習熟。
15 197-210 コート：縮尺作図（デザイン各種）まとめ			基本的な厚地コートの平面作図をもとに、各種デザインへの展開力の習熟。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-13	デザインコート：実物作図～型出し	応用的な厚地コートの平面作図及び仕様への構成力の習熟。
2	14-26	デザインコート：型出し補正、パターン修正	応用的な厚地コートの平面作図及び仕様への構成力の習熟。
3	27-39	デザインコート：パターン修正～工業用パターン作成	応用的な厚地コートの平面作図及び仕様への構成力の習熟。
4	40-52	クリエーション作品 縮尺作図	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。各種使用素材に対する適切な作図の選定能力の習熟。
5	53-65	クリエーション作品 実物作図1	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。各種使用素材に対する適切な作図の選定能力の習熟。
6	66-78	クリエーション作品 実物作図2 型出し1	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。各種使用素材に対する適切な作図の選定能力の習熟。
7	79-91	クリエーション作品 型出し2	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。各種使用素材に対する適切な作図の選定能力の習熟。
8	92-104	クリエーション作品 型出し3	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。各種使用素材に対する適切な作図の選定能力の習熟。
9	105-117	クリエーション作品 型出し4 補正1	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。使用素材に対する適切な作図の習熟。イメージするシルエットと実物との差異を修正するためのパターンメーキングにおいての考察力の習熟。
10	118-130	クリエーション作品 型出し5 補正2～パターン修正	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。使用素材に対する適切な作図の習熟。イメージするシルエットと実物との差異を修正するためのパターンメーキングにおいての考察力の習熟。
11	131-143	クリエーション作品 工業用パターン1	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。副資材を含めた、適切な仕様を選定した上でのパターンメーキング技術の習得。
12	144-156	クリエーション作品 工業用パターン2	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。副資材を含めた、適切な仕様を選定した上でのパターンメーキング技術の習得。
13	157-169	クリエーション作品 工業用パターン3	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。副資材を含めた、適切な仕様を選定した上でのパターンメーキング技術の習得。
14	170-182	後期試験対策	二年次を通して得た知識、技術を反復練習し、パターンメーキングにおける基礎能力・応用力を高める。時間内に重衣料パターンメーキングを行う設計力の習熟。
15	183-195	まとめ・3年次に向けてのトライアル講習	重衣料基礎パターン能力の確認。
その他 (授業に際しての注意点)		環境を整え効率的・合理的な作業方法を含めた製図指導、アパレル企画案に必要とされるプレゼンテーション能力の育成を含めた指導を行う。	

授業科目等の概要																				
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 2年																			
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。																			
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期		後期								
種別	服飾造形				授業方法		講義	△	演習	○	実習									
授業科目	ドレーピングⅡ				授業時間数		前期	15	後期	15	計	30								
担当教員	熊谷 朋美				職業実践専門課程：企業との連携															
※実務家教員																				
資格検定																				
授業概要	ドレーピングに関する基本的な知識・技術を理解し、身体の構造を読み取りながら、数値にとらわれることのない感性豊かな服作りが出来る技能を身につける。布目の重要性、ボディとパターンの関係、ドラフティングの仕方など、平面製図と比較しながらドレーピングの理解を深める。																			
学習成果	① 立体裁断によるより再現性の高いパターンメーキング技術の習得。 ② テキスタイルの特性を生かした整合性のある技術の習熟。 ③ アパレル企画職に就くための基礎となる基礎能力の習熟。 ※ 立体の基礎を習得しパターン力の幅を広げる。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果			%	2	提出物/期限遵守		80 %								
使用教材	●文化ファッション大系 服飾関連専門講座③																			

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	Aラインスカート1	晨間分量を含んだ基本的なドレーピング技術及びピン打ちの技術の習得。事前告知された寸法でのシーチングの裁断、地直しを行う事。
2	3-4	Aラインスカート2	晨間分量を含んだ基本的なドレーピング技術及びピン打ちの技術の習得。事前告知された寸法でのシーチングの裁断、地直しを行う事。
3	5-6	ヨーク切替フレアスカート1	切替、晨間分量を含む応用的なドレーピング技術の習得。事前告知された寸法でのシーチングの裁断、地直しを行う事。
4	7-8	ヨーク切替フレアスカート2	切替、晨間分量を含む応用的なドレーピング技術の習得。事前告知された寸法でのシーチングの裁断、地直しを行う事。
5	9-10	ヨーク切替フレアスカート3	切替、晨間分量を含む応用的なドレーピング技術の習得。事前告知された寸法でのシーチングの裁断、地直しを行う事。
6	11-12	ギャザースカート1	大きな晨間とディテール（ギャザー）の入った応用的なドレーピング技術の習得。事前告知された寸法でのシーチングの裁断、地直しを行う事。
7	13-14	ギャザースカート2	大きな晨間とディテール（ギャザー）の入った応用的なドレーピング技術の習得。事前告知された寸法でのシーチングの裁断、地直しを行う事。
8	15	まとめ	立体裁断で行った製図をまとめ、平面作図でのラインの意味をより深く理解する。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期 授業計画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	四面構成プリンセスライン1（身頃）	立体的に体にフィットした多面構成の上衣をドレーピングで製作する技術の習得。事前告知された寸法でのシーティングの裁断、地直しを行う事。
2	3-4	四面構成プリンセスライン2（身頃）	立体的に体にフィットした多面構成の上衣をドレーピングで製作する技術の習得。事前告知された寸法でのシーティングの裁断、地直しを行う事。
3	5-6	四面構成プリンセスライン3（身頃）	立体的に体にフィットした多面構成の上衣をドレーピングで製作する技術の習得。事前告知された寸法でのシーティングの裁断、始直しを行う事。
4	7-8	スタンドカラー	基本的な衿をドレーピングで再現する技術の習得。平面作図での製図を、立体で作る事でより深い理解を促す。事前告知された寸法でのシーティングの裁断、地直しを行う事。
5	9-10	シャツブラウスの展開1（自由切り替え作品）	基本的なシャツブラウスを自由な展開で再現するドレーピング技術の習得。事前告知された寸法でのシーティングの裁断、地直しを行う事。
6	11-12	シャツブラウスの展開2（自由切り替え作品）	基本的なシャツブラウスを自由な展開で再現するドレーピング技術の習得。事前告知された寸法でのシーティングの裁断、地直しを行う事。
7	13-14	シャツカラー	折り返りのある立体的な衿をドレーピングで製作する技術の習得。事前告知された寸法でのシーティングの裁断、地直しを行う事。
8	15	まとめ	立体裁断で行った製図をまとめ、平面作図でのラインの意味をより深く理解する。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		集中授業。	

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程	ファッションデザイン専攻科	2年
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、洞察力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。		
分類	必修	○	選択
種別	配当年次	2年	学期
授業科目	服飾造形	授業方法 講義	△ 演習 △ 実習
担当教員	ソーアイントⅡ	授業時間数 前期	120 後期 165 計 285
※実務家教員	今村 大祐	職業実践専門課程：企業との連携	○
資格検定	○ 今村：アパレル企業の営業企画での実務経験及び国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級取得にて培ってきた、実務性の高い服飾造形に関する知識を教授する。	必修	選択
授業概要	パターンやデザイナーの意図を汲み取り、縫製仕様書に従い、裁断した生地を素材特性や柄などに配慮しつつ、ミシン操作、アイロン作業、最終仕上げまで、各種部分縫いを交えながらより良い制品としての技術を習得する。薄物素材、ニット素材、厚地ウール、特殊素材などで製品を製作する。		
学習成果	① 構造を理解し服作りが出来るアパレルデザイナー実務能力の習熟。 ② パターンメーキングと連動したアパレル造形・仕様への理解習熟。 ③ 縫製職に就くための基盤となる基礎能力の習熟。 ※ 衣服の制作及び他カリキュラムとの連動成果が得られる。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1 定期試験結果 2 提出物/期限遵守 3 独創性/習熟度 4 意欲・授業態度
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●KFDオリジナル実習プリント配布		

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-8	カット&ソーン作品(裁断、準備工程、縫製、まとめ、仕上げ)	ニット素材縫製仕様への理解及び活用法の習熟。イメージするニット素材の調査及び準備。
2	9-16	単衣パンツ作品【前あきファスナー、シームポケット部分縫い】	より立体的な下衣への理解。各種ポケット構造・仕様への理解及び活用法の習熟。イメージするテキスタイルの調査及び準備。
3	17-24	単衣パンツ作品 縫製、まとめ 仕上げ	より立体的な下衣への理解。各種ポケット構造・仕様への理解及び活用法の習熟。イメージするテキスタイルの調査及び準備。
4	25-32	デザインジャケット地直し マーキング	より効率的な既製服仕様（マシンメイド）スーツの構造及び仕様への理解。イメージするスーツ素材・副資材への調査及び準備。
5	33-40	デザインジャケット裁断 芯貼り 再裁断 テープ貼り	より効率的な既製服仕様（マシンメイド）スーツの構造及び仕様への理解。効率的な準備工程の理解・習熟。
6	41-48	スーツ(スカート)部分縫い【ファスナーベンツあき】	より効率的な既製服仕様（マシンメイド）スーツの構造及び仕様への理解。
7	49-56	デザインジャケット部分縫い【両玉縁フラップ付ポケット】	より効率的な既製服仕様（マシンメイド）スーツの構造及び仕様への理解。
8	57-64	デザインジャケット縫製1	より効率的な既製服仕様（マシンメイド）スーツの構造及び仕様への理解。
9	65-72	デザインジャケット縫製2	より効率的な既製服仕様（マシンメイド）スーツの構造及び仕様への理解。
10	73-80	デザインジャケット縫製3 まとめ 仕上げ	より効率的な既製服仕様（マシンメイド）スーツの構造及び仕様への理解。既製品出荷時におけるまとめ作業の習熟。
11	81-88	職業実践専門課程取組作品 地直し 裁断 縫製1	職業実践専門課程における商品化目的とした実務技能の習熟。ナチュラル系婦人既製服へのディテール・仕様・シルエット調査。
12	89-96	職業実践専門課程取組作品 縫製2	商品化目的とした実務技能の習熟。
13	97-104	職業実践専門課程取組作品 縫製3 仕上げ売品制作 まとめ	商品化目的とした実務技能の習熟。既製品出荷時におけるまとめ作業の習熟。校内を市場に見立てニーズのある商品を意識した売品作り。コストを考えた上で調査及び提案。
14	105-112	ふらし仕立てのコート 地直し マーキング	既製品仕様厚地童衣料への理解、厚地素材の縫製技能の習熟。イメージする厚地ウール素材の調査及び準備。
15	113-120	コート 裁断、テープ貼り 準備工程	既製品仕様厚地童衣料への理解、厚地素材の縫製技能の習熟。

後期 授業 計画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-11	コート 部分縫い 【アウトポケット無飾り・比翼明き本式・箱ポケット本仕立て部分縫い】	既製品仕様厚地重衣料への理解、厚地素材の縫製技能の習熟。
2	12-22	コート 部分縫い 【シームポケット部分縫い・ふらせ仕立て・パイピング始末】	既製品仕様厚地重衣料への理解、厚地素材の縫製技能の習熟。
3	23-33	コート 縫製1	既製品仕様厚地重衣料への理解、厚地素材の縫製技能の習熟。
4	34-44	コート 縫製2	既製品仕様厚地重衣料への理解、厚地素材の縫製技能の習熟。
5	45-55	コート 縫製3 まとめ	既製品仕様厚地重衣料への理解、厚地素材の縫製技能の習熟。既製品出荷におけるまとめ作業の習熟。
6	56-66	クリエーション作品 地直し 裁断	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。各グループでのテキスタイル製作・選定・準備。制作する企画への理解共有。
7	67-77	クリエーション作品 縫製1	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。
8	78-88	クリエーション作品 縫製2	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。
9	89-99	クリエーション作品 縫製3	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。
10	100-110	クリエーション作品 縫製4	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。
11	111-121	クリエーション作品 縫製5	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。
12	122-132	クリエーション作品 縫製6	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。
13	133-143	クリエーション作品 縫製7	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。
14	144-154	クリエーション作品 縫製8 まとめ・仕上げ	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。コーディネート物を含む、各種小物への仕様・工程の構成力習熟。
15	155-165	まとめ	2年次ソーリングのまとめ、個別に習熟不足な項目を復習する。
その他 (授業に際しての注意点)		環境を整え効率的・合理的な作業方法を含めた縫製指導、既製服製造を目的とするにあたるまとめ、検針検品に関する指導、アパレル企画業に必要とされるプレゼンテーション能力の育成を含めた指導を行う。	

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程	ファッションデザイン専攻科	2年
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。		
分類	必修	○	選択
種別	配当年次	2年	学期
授業科目	流通・販売	授業方法	講義
担当教員	市場調査Ⅱ	授業時間数	△ 演習 ○ 実習
※実務家教員	今村 大祐	前期	15 後期 15 計 30
資格検定		職業実践専門課程：企業との連携	○
	○ アパレル企業の営業企画での実務経験及び国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級取得にて培ってきた、実務性の高い服飾形に関する知識を教授する。		

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	カットソー・パンツ調査	カットソー・パンツ企画制作にあたり、市場性のあるアイテムの調査、考察を行う観察力の習熟。考察における文章での適切な表現が出来るよう、トレンド情報誌を読んでおくことが望ましい。
2	3-4	デザインジャケット調査	デザインジャケット企画制作にあたり、市場性のあるアイテムの調査、考察を行う観察力の習熟。考察における文章での適切な表現が出来るよう、トレンド情報誌を読んでおくことが望ましい。
3	5-6	職業実践専門課程取組作品及び競合ブランドを含むアイテム調査 (カラー・シルエット)	ナチュラル系アイテム企画制作にあたり、市場性のあるアイテムの調査、考察を行う観察力の習熟。適切な情報共有を行なうため8大感性及びより細かなカラーコライズ語彙の再確認をすることが望ましい。
4	7-8	職業実践専門課程取組作品及び競合ブランドを含むアイテム調査 (デザイン・ディテール)	ナチュラル系アイテム企画制作にあたり、有効なディテールの調査、考察を行う観察力の習熟。適切な情報共有を行なうため主にディテールについての商談知識を再確認する事が望ましい。
5	9-10	職業実践専門課程取組作品及び競合ブランドを含むアイテム調査 1 (各種仕様)	ナチュラル系アイテム企画制作にあたり、適切な仕様の調査、考察を行う観察力の習熟。適切な情報共有を行なうため縫製仕様を主とした服飾造形を再確認する事が望ましい。
6	11-12	職業実践専門課程取組作品及び競合ブランドを含むアイテム調査 2 (各種仕様)	ナチュラル系アイテム企画制作にあたり、適切な仕様の調査、考察を行う観察力の習熟。適切な情報共有を行なうため縫製仕様を主とした服飾造形を再確認する事が望ましい。
7	13-14	コート調査1	厚地コート企画制作にあたり、市場性のあるアイテムの調査、考察を行う観察力の習熟。適切な情報共有を行なうため縫製仕様を主とした服飾造形を再確認する事が望ましい。
8	15	コート調査2 まとめ	厚地コート企画制作にあたり、市場性のあるアイテムの調査、考察を行う観察力の習熟。調査物をまとめ、再度考察を行う。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	ハイブランド市場調査1(デザイナーズブランド)	クリエーション作品を制作するにあたり、ハイクオリティなデザイン・仕様・縫製を見ることにより、感性を養う。
2	3-4	ハイブランド市場調査2(デザイナーズブランド)	クリエーション作品を制作するにあたり、ハイクオリティなデザイン・仕様・縫製を見ることにより、感性を養う。
3	5-6	福岡のアパレル企業リサーチ1	希望する就職先を意識しリサーチを行い、デザインだけではなく、カラー、素材、価格、実績販売等を理解し、提案力を習得する。自己の希望する職種、企業を明確にしておく事が望ましい。
4	7-8	福岡のアパレル企業リサーチ2	希望する就職先を意識しリサーチを行い、デザインだけではなく、カラー、素材、価格、実績販売等を理解し、提案力を習得する。自己の希望する職種、企業を明確にしておく事が望ましい。
5	9-10	福岡のアパレル企業リサーチ3	希望する就職先を意識しリサーチを行い、デザインだけではなく、カラー、素材、価格、実績販売等を理解し、提案力を習得する。自己の希望する職種、企業を明確にしておく事が望ましい。
6	11-12	ハイブランド市場調査3(デザイナーズブランド)	3年次クリエーション作品を制作するにあたり、ハイクオリティなデザイン・仕様・縫製を見ることにより、感性を養う。
7	13-14	ハイブランド市場調査4(デザイナーズブランド)	3年次クリエーション作品を制作するにあたり、ハイクオリティなデザイン・仕様・縫製を見ることにより、感性を養う。
8	15	まとめ	集めた情報を適切にまとめ、今後活用できる資料にする総括能力の習熟。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		調査にあたってのマナーの徹底を行う。収集した情報は、ソーイング、パターンメーキング、服飾デザイン等において多元的に活用する。 社会状況を勘案し、密集地帯への調査を極力避け、ECでのオンライン調査の強化を行う。	

授業科目等の概要																															
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 3年																														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。																														
分類	必修	○	選択		配当年次	3年	学期	通年	○	前期		後期																			
種別	総論				授業方法	講義	○	演習	△	実習	△																				
授業科目	服飾造形論Ⅲ				授業時間数	前期	15	後期	15	計	30																				
担当教員	宇土 ユカ				職業実践専門課程：企業との連携				○																						
※実務家教員	○	アパレルブランド企画職での実務経験及び日本ファッション教育振興協会パターンメーキング技術検定1級の基礎能力を基に、実用性の高い衣服制作上の基礎知識を伝授する。																													
資格検定																															
授業概要	アパレル商品が出来るまで、さらに出来てから管理までを講じる。素材の取り扱い、特徴、裁断方法、縫製手順を基本的な知識をベースにして、特殊素材まで応用できる事を目的とする。主に特殊素材として薄物、透ける素材、レース、伸縮素材カットソー応用、革について学ぶ。またクリエーションショー作品においてオリジナル素材の取り扱いを実習を通して作品化する。また、他社へ制作依頼する仕様書の書き方を習得する。																														
学習成果	① 衣服制作の完成度を高める為の知識と技術を養う。 ② 効率的に衣服制作出来る方法を理解する。 ③ アパレル企画職実務の加工出し基礎力を身につける。 ※ 衣服制作上の基礎知識を正確に習得する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		80	%	2	提出物/期限遵守		10	%																		
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●文化ファッション大系 アパレル素材論① ●KFDオリジナル実習プリント配布																														

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1 1-2	特殊素材を使用した制作物の仕様 アンダードレス		フォーマル、ウェディング市場でのドレス制作に必要なアンダードレスの構造と制作方法を学ぶ。
2 3-4	薄物素材の代表であるレースの特徴と名称を知る。		年間を通じ注目素材といえるレース全般を範囲として習得する。
3 5-6	薄物素材 透ける素材全般 特徴 名称 デザイン 縫製上の注意点		取り扱いが難しい素材を制作物に生かせるスキルを身につける。
4 7-8	クリエーションショー作品 各自素材別 取り扱い		オリジナル素材開発に目を向け制作する。
5 9-10	クリエーションショー作品 縫製仕様		オリジナル作品制作の完成度を上げる為の縫製仕様を決定出来る能力を身につける。
6 11-12	クリエーションショー作品 マーキング		効率の良い衣服制作、コスト管理能力を身につける。
7 13-14	縫製仕様書作成上の注意点		上記経験学習として詳細な項目を理解する。
8 15	縫製仕様書 実務 まとめ		縫製仕様書作成トレーニング スキル向上を目指す。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	卒業記念展作品 素材と仕様の確認	繰り返しの反復による習熟度を高める。
2	3-4	縫製仕様書 実務1	繰り返しの反復による習熟度を高める。
3	5-6	縫製仕様書 実務2	繰り返しの反復による習熟度を高める。
4	7-8	特殊素材 革 総論	特殊素材としての革の基本的な知識を身につける。
5	9-10	特殊素材 革 デザイン縫製上の注意点	特殊素材、革のデザインと縫製の関係を知る。
6	11-12	卒業記念展作品の実務1	卒業記念展作品の実務経験を通じ技術教育のまとめに入る。
7	13-14	卒業記念展作品の実務2	卒業記念展作品の実務経験を通じ技術教育のまとめに入る。
8	15	復習 試験 まとめ	試験で確認することで、内容の理解を確認し深める。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		講義と実習が混在するカリキュラムで実習においては実習の効率化、初期段階より後半の習熟度に重きをおく。	

授業科目等の概要																			
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 3年																		
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。																		
分類	必修	○	選択		配当年次	3 年	学期	通年	○	前期		後期							
種別	デザイン					授業方法	講義	△	演習	△	実習	○							
授業科目	服飾デザインⅢ					授業時間数	前期	45	後期	15	計	60							
担当教員	宇土 ユカ・鈴木 綾					職業実践専門課程：企業との連携					○								
※実務家教員	○	宇土：アパレルブランド企画職での実務経験及び日本ファッショング教育振興協会パターンメーキング技術検定1級の基礎能力を基に、実用性の高い衣服制作上の基礎知識を伝授する。																	
資格検定																			
必修																			
選択																			

授業概要	感性を創作へと作品化する、制作及びコーディネートを含む表現を学ぶ。各種コンクール作品に対応する一方で、リアルクローズな製品課題を通じ市場ニーズをとらえたデザイン力をつける。ブランドプロデュース、パターンメーキング、ソーイング、アパレルCADの授業連携し作品発表する。
①	服飾デザイナーとしての資質デザイン能力を身につける。
②	アパレルファッショングデザイナーとしての能力を習得する。
③	デザインと、社会、環境、経済などの関連を理解する。
※	デザイナーとしてのポテンシャルを高める。

使用教材	●文化ファッショング大系 服飾関連専門講座⑨ ●雑誌

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1 1-3	クリエーション作品1 テーマ設定、完成像の明確化1		クリエーション作品1プレゼンテーション準備。提示材料を可視化する。
2 4-6	クリエーション作品1 テーマ設定、完成像の明確化2		クリエーション作品1プレゼンテーション準備。発表内容の検討及び言語化。
3 7-9	クリエーション作品1 コンセプトの確定、デザイン検討1		コンセプトに沿い作品のデザインを導く。
4 10-12	クリエーション作品1 コンセプトの確定、デザイン検討2		コンセプトに沿い作品のデザインを導く。
5 13-15	ブランディングとは アートディレクター佐藤可士和の事例研究		ブランディングにまつわる段階別のエピソードや見解から自身が導く考えをレポートする。
6 16-18	ファッショントレンドセミナー受講 向 千鶴		世界のファッショントレンドの潮流を知る。
7 19-21	クリエーション作品1 コーディネート		衣服は単体で語られずコーディネートによって完成する。よってコーディネート案を検討する。
8 22-24	クリエーション作品1 コーディネート決定		検討されたコーディネート案からベストなコーディネートを導く。
9 25-27	クリエーション作品2 プrezentation		クリエーション作品2プレゼンテーションの訴求力を学ぶ。
10 28-30	ブランドプロデュース作品 デザイン検討1		クリエーション作品2のバリエーションを考える。
11 31-33	ブランドプロデュース作品 デザイン検討2		クリエーション作品3のバリエーションを考える。
12 34-36	文化祭作品導入		デザインと社会との関わりを学ぶカリキュラム内容の導入。
13 37-39	文化祭作品 素材選定		制作品に最も適する素材の選定を学ぶ。
14 40-42	文化祭作品 デザイン		コンセプト、ターゲットにてらしたデザイン力を養う。
15 43-45	まとめ		前期末仕上げを行う。

後期 授業 計画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	クリエーション作品2 デザイン導入	コンセプトに沿ったデザイン発想力を身につける。
2	3-4	クリエーション作品2 デザイン検討	デザインバリエーションの応用力と訴求力を身につける。
3	5-6	クリエーション作品2 デザイン決定	デザインバリエーションの応用力と訴求力を身につける。
4	7-8	クリエーション作品2 コーディネート 制作1	トレンドを加味し、コーディネート力を身につける。
5	9-10	クリエーション作品2 コーディネート 制作2	トレンドを加味し、コーディネート力を身につける。
6	11-12	クリエーション作品2 コーディネート物 まとめ1	訴求力のある作品発表力を養う。
7	13-14	クリエーション作品2 コーディネート物 まとめ2	訴求力のある作品発表力を養う。
8	15	まとめ	年間を通しての服飾デザイン活動を総括する。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		採点の基本は上記授業の成果としての制作物、クリエーション作品、しあわせのかたちプロジェクト作品、デザインバランスに重きをおく。	

授業科目等の概要																															
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 3年																														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、バタンナー、CADオペレーター、モダリスト）を目指す。																														
分類	必修	○	選択		配当年次	3 年	学期	通年	○	前期		後期																			
種別	デザイン				授業方法	講義	△	演習	△	実習	○	計																			
授業科目	ドローイングⅢ				授業時間数	前期	30	後期	30	計	60																				
担当教員	舞田 章子				職業実践専門課程：企業との連携																										
※実務家教員	○	他校講師ならびに自身のコンクール入賞経験を経て評価を得ている。ドローイングの表現力を最終学年用に伝授する。																													
資格検定																															
授業概要	デザイナーとして他者に提案するスタイル画を描く事はもちろん布の微妙な色使いや、材質を表現できるよう、様々な表現方法を学んでいく。最上級生として各コンテストに応募しその中でコンセプトの書き方、素材の表現方法も学ぶ。またブランドプロデュースの授業内容と連動しオリジナルブランド製品のスタイル画をまとめる。同時に日々のトレーニングによりアパレルデザインとして実販につながるスタイル画法を習得する。※コンテスト作品への対応を行う為、前後期イレギュラーな回数で行うが、通年で換算することとする。																														
学習成果	①	正確なアパレルデザイン画を描けるスキルを身につける。				成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%																					
	②	デザイナーとして他者に伝わる訴求力のデザイン画を描ける。					2	提出物/期限遵守		%																					
	③	クリエイティブで感性に伝わるデザイン画を描ける。					3	独創性/習熟度		%																					
	※	デザイナーに必須なドローイングスキルを身につける。					4	意欲・授業態度		%																					
使用教材	●KFDオリジナル実習プリント配布 ●ドローイングセット																														

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)				授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	YKKコンテスト作品		ドローイングスキルで制作品のコンセプトを伝達する力をつける。
2	3-4	YKKコンテスト作品 下絵		コンセプトに基づいたスタイル画表現と平面レイアウトを学ぶ。
3	5-6	クリエーション作品 コンセプト		取り組みのスタートラインでコンセプト作品の魅力を他者に伝える力を養う。
4	7-8	YKKコンテスト作品 仕上げ		カラー展開されることで作品の魅力をより明確にする。
5	9-10	ナゴヤファッションコンクール 下絵		全国規模のコンクールにトライする事で他者への共感力を問う。
6	11-12	ナゴヤファッションコンクール 着彩		短時間でスタイル画を仕上げる力を養う。
7	13-14	日暮里ファッションコンテスト・新宿ファッションフィールド・全国ファッションデザインコンテスト・千年大賞 下絵		コンセプトに基づいたファッションコンテスト作品を仕上げる。
8	15-16	日暮里ファッションコンテスト・新宿ファッションフィールド・全国ファッションデザインコンテスト・千年大賞 下絵		コンセプトに基づいたファッションコンテスト作品を仕上げる。
9	17-18	日暮里ファッションコンテスト・新宿ファッションフィールド・全国ファッションデザインコンテスト・千年大賞 着彩		全国規模のコンクールにトライする事で他者への共感力を問う。
10	19-20	日暮里ファッションコンテスト・新宿ファッションフィールド・全国ファッションデザインコンテスト・千年大賞 着彩		全国規模のコンクールにトライする事で他者への共感力を問う。
11	21-22	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール下絵		ドローイングによるイメージの具現化、表現能力を高める。
12	23-24	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール下絵2		ドローイングによるイメージの具現化、表現能力を高める。
13	25-26	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール着彩1		ドローイングによるイメージの具現化、表現能力を高める。
14	27-28	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール着彩2		ドローイングによるイメージの具現化、表現能力を高める。
15	29-30	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール着彩3 まとめ		ドローイングによるイメージの具現化、表現能力を高める。

後期授業計画（10月-3月）			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール着彩1	ドローイングによるイメージの具現化、表現能力を高める。
2	3-4	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール着彩2	ドローイングによるイメージの具現化、表現能力を高める。
3	5-6	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール着彩3 完成	ドローイングによるイメージの具現化、表現能力を高める。
4	7-8	全国服飾学校スタイル画コンテスト下絵1	ファッショントレンドテーマ設定に沿うドローイングの表現力を養う。
5	9-10	全国服飾学校スタイル画コンテスト下絵2	ファッショントレンドテーマ設定に沿うドローイングの表現力を養う。
6	11-12	全国服飾学校スタイル画コンテスト着彩 完成	ファッショントレンドテーマ設定に沿うドローイングの表現力を養う。
7	13-14	ブランドプロデュース作品 下絵1	デザイナーとしてのスタイル画力を身に付ける。
8	15-16	ブランドプロデュース作品 下絵2	デザイナーとしてのスタイル画力を身に付ける。
9	17-18	ブランドプロデュース作品 着彩1	着彩による素材・ディテール表現力を身に付ける。
10	19-20	ブランドプロデュース作品 着彩2	着彩による素材・ディテール表現力を身に付ける。
11	21-22	クリエーション作品2 下絵1	デザイナーとしてのクリエイティブなスタイル画力を身に付ける。
12	23-24	クリエーション作品2 下絵2	デザイナーとしてのクリエイティブなスタイル画力を身に付ける。
13	25-26	クリエーション作品2 着彩1	着彩による素材・ディテール表現力を身に付ける。
14	27-28	クリエーション作品2 着彩2	着彩による素材・ディテール表現力を身に付ける。
15	29-30	ドローイング まとめ	ドローイングによるイメージの具現化、表現能力を高める。
その他 (授業に際しての注意点)		各項目の事前準備としてラフ案提出。各作品は服飾デザインⅢ、パターンメーキングⅢ、ソーイングⅢと連携し文化祭、卒業記念展において発表。又各種コンクールに応募する。また、ブランドプロデュース作品において企業デザイナー用スタイル画力をつける。	

授業科目等の概要																													
学科	服飾専門課程						ファッションデザイン専攻科 3年																						
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。																												
分類	必修	○	選択		配当年次	3 年	学期	通年	○	前期		後期																	
種別	企画						授業方法	講義	△	演習	○	実習																	
授業科目	ブランドプロデュース						授業時間数	前期	30	後期	60	計 90																	
担当教員	城代 蘭						職業実践専門課程：企業との連携																						
※実務家教員	○	アパレル会社の企画デザイナー兼DTP業務を経験し培ってきた、実務を生かし教授する。																											
資格検定																													
授業概要	ブランドを立ちあげ商品企画の流れを習得する。これから市場・社会・経済を踏まえた立案できる力を付ける。そして売れるデザインを生み出すことを目標とする。また、クリエーション作品のポートフォリオ・ブランドの企画書制作も行う。人に伝えるデザイン力も身につける。																												
学習成果	① 市場の動きを考え、ブランド戦略を考える力を身につける。 ② 売れる商品展開を考える力を身につける。 ③ 伝わる資料作りを考え習得する。 ※ 新しい視点で、市場を考えた企画を生み出す力を付ける。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		%	2	提出物/期限遵守		50	%																	
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ● ファッション・マーケティング ● KFDオリジナル実習プリント配布 ● 練研新聞・雑誌 																												

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1 1-2	プランディングとは 導入		2年次の服飾デザインⅡから引き続き自身で決めたクリエーションテーマからブランドを立ち上げる。
2 3-4	ブランド企画表制作 ブランド戦略を考える1		ブランドターゲットなどを設定する。他社ブランドの成功例を上げて戦略を練る。今後の社会を見据えて総研新聞等をリサーチする。
3 5-6	ブランド企画表制作 ブランド戦略を考える2		ブランドターゲットなどを設定する。他社ブランドの成功例を上げて戦略を練る。今後の社会を見据えて総研新聞等をリサーチする。
4 7-8	ブランドプレゼンテーション		人に伝え、自分自身のブランドを客観視する。
5 9-10	ブランドMAP制作		ブランドを可視化するMAPを作る。
6 11-12	ブランドMAP制作		ブランドを可視化するMAPを作る。
7 13-14	ブランドプレゼンテーション		人に伝え、自分自身のブランドを客観視する。
8 15-16	デザイン案出し1		前回の切り抜きを踏まえて、商品化するデザイン出し。
9 17-18	デザイン案出し2		前回の切り抜きを踏まえて、商品化するデザイン出し。
10 19-20	営業台帳案出し ポートフォリオ導入		デザイン案から営業台帳を作成する。クリエーション作品を人に伝わるポートフォリオを制作する。
11 21-22	ポートフォリオ制作1		クリエーション作品を人に伝わるポートフォリオを制作する。
12 23-24	ポートフォリオ制作2		クリエーション作品を人に伝わるポートフォリオを制作する。
13 25-26	ポートフォリオ制作3		クリエーション作品を人に伝わるポートフォリオを制作する。
14 27-28	ポートフォリオ制作4		クリエーション作品を人に伝わるポートフォリオを制作する。
15 29-30	ポートフォリオ制作5		クリエーション作品を人に伝わるポートフォリオを制作する。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-4	ポートフォリオ制作6まとめ	ポートフォリオを完成させる。
2	5-8	ブランドロゴ作り	前回の講義を踏まえて、ブランドロゴを作成。
3	9-12	企画表打ち込み	企画した内容を他社に伝わる紙面を作る
4	13-16	ブランド戦略打ち込み	プレゼンテーションを行った際に調べた内容を踏まえ戦力を打ち込む
5	17-20	営業台帳 カラー展開と素材を入力1	商品のカラー展開や素材を考える。
6	21-24	営業台帳 カラー展開と素材を入力2	商品のカラー展開や素材を考える。
7	25-28	営業台帳 平面画書き込み1	平面画で商品の良さを伝える。
8	29-32	営業台帳 平面画書き込み2	平面画で商品の良さを伝える。
9	33-36	営業台帳 平面画書き込み3	平面画で商品の良さを伝える。
10	37-40	表紙・背表紙制作1	ブランドの企画書の表紙デザインを効果的に考える。
11	41-44	表紙・背表紙制作2	ブランドの企画書の表紙デザインを効果的に考える。
12	45-48	あとがき制作	感想や考察のページを制作。
13	49-52	ポスター・DM制作1	ブランドポスターを制作する。ビジュアルで伝え魅力ある広報物を制作する。
14	53-56	ポスター・DM制作2	ブランドポスターを制作する。ビジュアルで伝え魅力ある広報物を制作する。
15	57-60	まとめ 企画書完成	企画書をファイリングし、完成させる。
その他 (授業に際しての注意点)		授業意欲として常に美術館・雑誌・新聞などのデザインに関する全ての情報を見て感性を高める。また、織研新聞を常に読みアパレル業界の今、これからを考えられる知識を身につける。ポートフォリオ・営業台帳は授業外で制作する必要があるため、課題を提出日に出していかないと課題が溜まる恐れがある。	

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 3年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、探索力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。												
分類	必修	○	選択		配当年次	3年	学期	通年	○	前期		後期	
種別	企画				授業方法	講義	△	演習	○	実習	○		
授業科目	プロデュースショーⅡ				授業時間数	前期	15	後期	15	計	30		
担当教員	沢田 リナ・宇土 ユカ・鈴木 綾				職業実践専門課程：企業との連携				○				
※実務家教員	○	沢田：プロモデルとしての活動及びモデルエージェンシーにおけるモデル育成指導。ファッションショーの演出等を手掛けた実績をファッションショー実施の基礎課程において伝授。											
資格検定								必修		選択			
授業概要	ファッション業界で企画に携わるにあたり、表現方法のひとつとしてファッションショーを企画・演出・プロデュースする。3年次ではウォーキング、舞台構成、音楽、照明、プロモーションを含めた立案、演習をクリエーションショー、ワークショップなどとのコラボレーションファッションショーを通じて学ぶ。												
学習成果	① 衣服を美しくみせる表現力の習得。 ② 演出によるコンセプトの伝達力を養う。 ③ 企画案を成功に導くプロセスを学ぶ。 ※ ショー運営するにあたり、計画性・実効性を養う。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果			%	2	提出物/期限遵守		%	
使用教材	●DVD（前年度卒業記念展・コンテストDVD等）												

前期授業計画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	基礎 立ち方 歩き方 モデル選出	衣服を美しくみせる表現力の基礎を学ぶ。モデルキャスティング。
2	3-4	基礎 立ち方 歩き方 モデル選出	衣服を美しくみせる表現力の基礎を学ぶ。モデルキャスティング。
3	5-6	基礎 ターン はけ方	動作における美を身体を通して学ぶ。モデルキャスティング。
4	7-8	基礎 ターン はけ方	動作における美を身体を通して学ぶ。モデルキャスティング。
5	9-10	クリエーションショー 構成練習1	演出によるコンセプト伝達力を養う。
6	11-12	クリエーションショー 構成練習2	演出によるコンセプト伝達力を養う。
7	13-14	クリエーションショー 構成練習3	演出によるコンセプト伝達力を養う。
8	15-16	クリエーションショー リハーサル1	実働を通し、計画を遂行する能力を得る。
9	17-18	クリエーションショー リハーサル2	実働を通し、計画を遂行する能力を得る。
10	19-20	クリエーションショー リハーサル3	反復による修正能力を高める。
11	21-22	クリエーションショー リハーサル4	反復による修正能力を高める。
12	23-24	クリエーションショー 本番・まとめ1	計画を予定に基づき実行することを学ぶ。 着用による衣服の見せ方を学ぶ。
13	25-26	クリエーションショー 本番・まとめ2	計画を予定に基づき実行することを学ぶ。 着用による衣服の見せ方を学ぶ。
14	27-28	クリエーションショー 本番・まとめ3	計画を予定に基づき実行することを学ぶ。 着用による衣服の見せ方を学ぶ。
15	29-30	クリエーションショー 本番・まとめ4	計画を予定に基づき実行することを学ぶ。 着用による衣服の見せ方を学ぶ。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー立案・準備	テーマコンセプトに沿った演出プロデュースを考える。
2	3-4	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー立案・準備	テーマコンセプトに沿った演出プロデュースを考える。
3	5-6	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー会場	企画案を成功に導くプロセスを学ぶ。
4	7-8	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー会場	企画案を成功に導くプロセスを学ぶ。
5	9-10	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー会場等準備	企画案成功への確認作業。
6	11-12	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー会場等準備	企画案成功への確認作業。
7	13-14	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー衣装チェック等	フィッティング技術、スケジュールに沿った動きの習得。
8	15-16	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー衣装チェック等	フィッティング技術、スケジュールに沿った動きの習得。
9	17-18	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー会場	計画遂行に向かって動く。
10	19-20	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー会場	計画遂行に向かって動く。
11	21-22	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー会場	計画遂行に向かって動く。
12	23-24	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー会場	計画終了後の動き、まとめを学ぶ。
13	25-26	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー会場	計画終了後の動き、まとめを学ぶ。
14	27-28	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー会場	計画終了後の動き、まとめを学ぶ。
15	29-30	ワークショップたちばなコラボレートファッショショーカー会場	計画終了後の動き、まとめを学ぶ。
その他 (授業に際しての注意点)		準備、片付けを含み、ウォーキングの基礎からショー運営を学ぶ。※卒業記念展の状況により変更の可能性あり。	

授業科目等の概要																															
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 3年																														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。																														
分類	必修	○	選択		配当年次	3年	学期	通年	○	前期		後期																			
種別	パソコン				授業方法	講義	△	演習	○	実習	△																				
授業科目	アパレルCAD II				授業時間数	前期	45	後期	45	計	90																				
担当教員	白瀬 由佳理				職業実践専門課程：企業との連携																										
※実務家教員	○	アパレル企業で培ったCADパターンナーの実務を活かし、実務性の高いアパレルCAD操作方法を教授する。																													
資格検定																															
授業概要	東レクレアコンポのソフトを使用しアパレルCADの基本操作の講義。2年次に学んだパターンメーキングの応用。スピードと正確さを求める、デザインに合わせたパターンメーキングのメニューを使い分けられる事を目指す。後期では、自らデザインしたワンピースを作図する。それに準じた、マーキング・工程表・縫製仕様書を作成する。工場出しづることを考えたパターン作図を目指す。																														
学習成果	① 東レクレアコンポのアパレルCAD操作をスキルアップし習得する。 ② CADを使用し縫い代と仕様を理解した工業用パターン制作。 ③ 仕様・デザインに適した、作図の操作方法を理解する。 ※ 工場生産できるパターンを作図することを目標とする。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		%	2	提出物/期限遵守		40	%																			
使用教材	●KFDオリジナル実習プリント配布																														

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-3	2年次の復習	反復練習し理解を深める。
2	4-6	Aラインのブラウス作成	各自のスピードで有型からの展開をし、作図する。
3	7-9	ヨーク切替のシャツ作成	パターンチェックをするメニューが多種ある為、ヨーク切り替えのブラウスを作図する中で多種使い適したメニューを理解する。
4	10-12	ウエスタン調のブラウス作成1	パターンチェックをするメニューが多種ある為、ウエスタン調ブラウスを作図する中で多種使い適したメニューを理解する。反復練習となる。
5	13-15	ウエスタン調のブラウス作成2	パターンチェックをするメニューが多種ある為、ウエスタン調ブラウスを作図する中で多種使い適したメニューを理解する。反復練習となる。
6	16-18	レースのフリルブラウス作成	ギャザーの倍率を考えた作図をする。
7	19-21	シャツカラーの作図	身頃に合わせたシャツカラーの作図を行う。
8	22-24	台衿付きシャツカラーの作図	身頃に合わせた台衿付きシャツカラーの作図を行う。
9	25-27	袖の作図	シングルカフスの理解を深め、仕様に合わせた作図を行う。
10	28-30	袖の山の作図	有型を使用しない、袖山の作図を行う。
11	31-33	スキャンしたブラウスをトレースする	実際にトレースされたデータを基にパターン修正を行う。美しい線を引くようになる。
12	34-36	シフト型ワンピースの作図1	平直作図を行い、パターンチェックを理解し合わせのメニューを使い分ける。
13	37-39	シフト型ワンピースの作図2	平直作図を行い、パターンチェックを理解し合わせのメニューを使い分ける。
14	40-42	前期試験対策1	時間内で正確に仕様書に合わせたパターンが出来る練習を行う。
15	43-45	前期試験対策2	時間内で正確に仕様書に合わせたパターンが出来る練習を行う。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-3	前期試験対策3	時間内で正確に仕様書に合わせたパターンが出来る練習を行う。
2	4-6	前期試験	時間内で正確に仕様書に合わせたパターンを作図する。
3	7-9	試験の講評・平面画の制作	平面画をpatternmagicのソフトを使用し描く。仕様書に使用する。
4	10-12	ブランドプロデュース パターンメーキング1	ブランドプロデュースと連動し有り型を使用しファーストパターンを作図する。
5	13-15	ブランドプロデュース パターンメーキング2	ブランドプロデュースと連動し有り型を使用しファーストパターンを作図する。
6	16-18	ブランドプロデュース パターンメーキング3	ブランドプロデュースと連動し有り型を使用しファーストパターンを作図する。
7	19-21	ブランドプロデュース パターンメーキング4	ブランドプロデュースと連動し有り型を使用しファーストパターンを作図する。
8	22-24	ブランドプロデュース パターンメーキング5	ブランドプロデュースと連動し有り型を使用しファーストパターンを作図する。
9	25-27	工業用パターン制作1	ブランドプロデュースと連動し有り型を使用し工業用パターンを作図する。
10	28-30	工業用パターン制作2	ブランドプロデュースと連動し有り型を使用し工業用パターンを作図する。
11	31-33	工業用パターン制作3	ブランドプロデュースと連動し有り型を使用し工業用パターンを作図する。
12	34-36	マーキング・パターンリスト制作	patternmagicのソフトを使用し、無駄なくマーキングできるようになる。また、使用するパターンをExcelを使用し表にまとめる。
13	37-39	縫製仕様書の作成1	企画書に入れる仕様書をAdobe Illustratorで制作する。
14	40-42	縫製仕様書の作成2	企画書に入れる仕様書をAdobe Illustratorで制作する。
15	43-45	まとめ	CADの操作方法を復習し、理解を深める。
その他 (授業に際しての注意点)		アパレル企業において、不可欠なアパレルCADの操作方法の理解を深める。工場出しをする事を想定し、他者に伝わる工業用パターンを制作する。	

授業科目等の概要																	
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 3年																
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モダリスト）を目指す。																
分類	必修	○	選択		配当年次	3 年	学期	通年	○	前期		後期					
種別	服飾造形				授業方法	講義	△	演習	△	実習	○						
授業科目	パターンメーキングⅢ				授業時間数	前期	165	後期	150	計	315						
担当教員	宇土 ユカ				職業実践専門課程：企業との連携				○								
※実務家教員	○	アパレルブランド企画職での実務経験及び日本ファッション教育振興協会パターンメーキング技術検定1級の基礎能力を基に、実用性の高い衣服制作上の基礎知識を伝授する。															
資格検定	日本ファッション教育振興協会パターンメーキング技術検定2級								必修	○	選択						
授業概要	企業パターンナーに求められる、フォルムバランスのとれたデザインパターンの制作、効率的な工業用パターンの制作を学ぶ。アパレル企業、企画者に適応したオリジナルパターンのとらえ方を習得する。各アイテムに対する基本スローパーの考え方を導入する。クリエーション作品など、表現に特化したパターンメーキング法を講義、実技、演習を通して学習する。																
学習成果	① アパレル企業パターンナーに必要なパターンスキルを習得する。 ② 独創性のあるクリエーション作品のパターン力を身につける。 ③ 企画者としての実務能力を習得する。 ※ パタンナーとして仕事をしていく能力の習得	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)				1	定期試験結果	80	%	2	提出物/期限遵守	10	%				
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●講座 工業用パターンメーキング ●KFDオリジナル実習プリント配布																

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)				授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-11	特殊素材使い フォーマルパターンビスピス チェ パニエ		フォーマル、ドレスパターンの基本であるファウンデーションパターンを習得する。
2	12-22	クリエーションショー作品1 作図1		オリジナリティとクリエイティビティの共存するパターンにチャレンジする。
3	23-33	クリエーションショー作品1 作図2		オリジナリティとクリエイティビティの共存するパターンにチャレンジする。
4	34-44	クリエーションショー作品1 作図3		オリジナリティとクリエイティビティの共存するパターンにチャレンジする。
5	45-55	クリエーションショー作品1 作図4		型出し、修正能力は自己の作品を客観視し、改善していく力を育てる。
6	56-66	クリエーションショー作品1 作図5		型出し、修正能力は自己の作品を客観視し、改善していく力を育てる。
7	67-77	クリエーションショー作品1 作図6		作品の完成をみこした仕様決定能力を磨く。
8	78-88	スローパーからのデザイン展開 ディテールデザイン パンツ		アパレルパターンナーとしての応用力を身につける。
9	89-99	衿、袖のデザイン展開		アパレルパターンナーとしてのディテール応用力を身につける。
10	100-110	文化祭作品 作図1		テーマに基づき、かつ条件が限定された中でのパターンメーキング力を磨く。
11	111-121	文化祭作品 作図2		テーマに基づき、かつ条件が限定された中でのパターンメーキング力を磨く。
12	122-132	ブランドプロデュース作品 作図1		企業パターンの実務を学ぶ。
13	133-143	ブランドプロデュース作品 作図2		企業パターンの実務を学ぶ。
14	144-154	前期試験 試験解説		習熟度の確認及び正確性とスピードへの挑戦。
15	155-165	まとめ		習得した内容の理解を深める。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-10	ブランドプロデュース作品 作図1	企業パターンの実務を学ぶ。
2	11-20	ブランドプロデュース作品 型出し1	フォルム確認の実務を学ぶ。
3	21-30	ブランドプロデュース作品 型出し1 修正	フォルム確認の実務を学ぶ。
4	31-40	ブランドプロデュース作品 工業用パターン1	合理的パターンメーキングを正確に学ぶ。
5	41-50	ブランドプロデュース作品 工業用パターン2	合理的パターンメーキングを正確に学ぶ。
6	51-60	クリエーションショー作品2 作図1	オリジナルパターンメーキングに対する独自の構成力を身につける。
7	61-70	クリエーションショー作品2 作図2	オリジナルパターンメーキングに対する独自の構成力を身につける。
8	71-80	クリエーションショー作品2 型出し1	フォルム・仕様・ディテールバランスの取れたパターンメーキングの習得。
9	81-90	クリエーションショー作品2 型出し2	フォルム・仕様・ディテールバランスの取れたパターンメーキングの習得。
10	91-100	クリエーションショー作品2 工業用パターン1	デザイン・フォルムバランス修正能力の習得。
11	101-110	クリエーションショー作品2 工業用パターン2	アバレルパターンメーキングの正確さと合理性の習得。
12	111-120	クリエーションショー作品 コーディネート作品パターン	反復作業によってより、パターン技術を向上させる。
13	121-130	ブランドプロデュース 工業用パターン	反復作業によってより、アバレルパターンメーキングの正確さと合理性の習得。
14	131-140	後期試験 試験解説	3時間の集大成、一定時間内に必要なパターンメーキング技術を発揮する。
15	141-150	まとめ	習得した内容の理解を深める。
その他 (授業に際しての注意点)		各講義、実習準備として各自1/2パターン、及び型出し課題あり。文化祭作品は障がい者週間において、ファッショントリビュート発表、卒業記念展、展示。卒業記念ファッションショーにおいて作品発表。	

授業科目等の概要

授業概要
服飾の作図の1つの方法としてドレーピングを学ぶ。トワルを直接ボディに合わせながらフォルムを形成していくドレーピング技術を習得する事により、衣服の成り立ち、布の特質をより把握する。又平面作図では表現できない微妙なニュアンスを表現しうる為の基礎を学ぶ。平面パターンに展開するための作業における正確な技術を身につける。

学習成果	① アパレルパターンナーとしてドレーピング基礎能力をつける。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果	80	%
	② 布の質感、流れ、ボリューム等を読み取れるスキルを付ける。		2	提出物/期限遵守	10	%
	③ ドラフティング能力を習得しパターンースキルを磨く。		3	独創性/習熟度	5	%
	※ 立体の基礎を習得しパターン力の幅を広げる。		4	意欲・授業態度	5	%

使
教
用
材

- 文化ファッション大系 アパレル生産講座⑪
- 文化ファッション大系 アパレル生産講座⑬
- KFDオリジナル実習プリント配布

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-3	クリエイティブドレーピング1	自由度の高いドレーピング経験からパターンの発想力を広げる。
2	4-6	クリエイティブドレーピング2	自由度の高いドレーピング経験からパターンの発想力を広げる。
3	7-9	ドレーピングとは トップス原型 ブラウス身頃	立体裁断の特徴をトップス、スローバー制作を通して学ぶ。
4	10-12	衿 シャツカラーおち衿 ドラフティング	ニュアンスを求める衿に関して、立体裁断を見ながら形を形成していく流れをつかむ。
5	13-15	衿 フラットカラー スタンドカラー ロールカラー	各種衿に取組み平面作図の理論もより理解する。
6	16-18	袖とアームホールの関係	機能を重視する袖形状を理解する。
7	19-21	ラグランスリーブ	ラグランスリーブの機能衿のふりの角度を理解する。
8	22-24	オープンカラー	地衿と構造を異にするオープンカラーを理解する。
9	25-27	ジャケット4面 フラップポケット1	4面構成のJK見頃及びフラップポケットを2週にわたり習得する。
10	28-30	ジャケット4面 フラップポケット2	4面構成のJK身頃及びフラップポケットを2週にわたり習得する。
11	31-33	ジャケット4面 ノッチドカラー	ノッチドカラー、衿こしと衿幅の関係を理解する。
12	34-36	試験準備	必要トowelの準備、地直し、道具の準備。
13	37-39	試験 評価	習熟度の確認し、実技試験ではスピードと美しさ正確さを求める。評価を可視化する。
14	40-42	試験 評価	習熟度の確認し、実技試験ではスピードと美しさ正確さを求める。評価を可視化する。
15	43-45	まとめ	習得した内容を深める。
その他 (授業に際しての注意点)	3年生ならではのドレーピングカリキュラムは、毎回内容が変化するので回毎の精度をアップさせていくよう努め、最終試験でその成果を問う。		

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 3年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。												
分類	必修	○	選択	配当年次	3 年	学期	通年	○	前期	後期			
種別	服飾造形					授業方法	講義	△	演習	△	実習		
授業科目	ソーイングIII					授業時間数	前期	150	後期	180	計 330		
担当教員	宇土 ユカ					職業実践専門課程：企業との連携					○		
※実務家教員	○	アパレルブランド企画職での実務経験及び日本ファッション教育振興協会パターンメーキング技術検定1級の基礎能力を基に、実用性の高い衣服制作上の基礎知識を伝授する。											
資格検定						必修			選択				
授業概要	アパレル企業において企画職として仕事をする上で、必要な衣服の造形を1.2年で習得した技術を基に実習を通して学ぶ。既製服仕立て、応用テクニックの習得を目的とする。デザイナーとしての資質を高める事を目標に提案力、表現力を問われる衣服の造形技術を実習を通して学ぶ。												
学習成果	① 段の構造を理解し段作りができるアパレルコレクションデザイナーの育成。 ② 将来的にモデルリストとして活躍出来る人材育成。 ③ 縫製職に就くための基礎となる基礎能力をつける。 ※ 衣服の制作及び多カリキュラムとの連動成果が得られる。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果			%					
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑧ ●KFDオリジナル実習プリント配布			2	提出物/期限遵守			%	10				

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-10	クリエーションショー作品 裁断・素材制作1	作品制作の手順を効率的に設計し正確に実行できるスキルをつける。
2	11-20	クリエーションショー作品 裁断・素材制作2	作品制作の手順を効率的に設計し正確に実行できるスキルをつける。
3	21-30	クリエーションショー作品 縫製1	縫製の初期段階では工程分析に沿って正確に効率よく進むスキルを身につける。
4	31-40	クリエーションショー作品 縫製2	縫製の初期段階では工程分析に沿って正確に効率よく進むスキルを身につける。
5	41-50	クリエーションショー作品 縫製3	縫製の中盤仕上がりを予測し中間工程を丁寧に進める技術を習得する。
6	51-60	クリエーションショー作品 縫製4	縫製の中盤仕上がりを予測し中間工程を丁寧に進める技術を習得する。
7	61-70	クリエーションショー作品 縫製5	縫製の中盤仕上がりを予測し中間工程を丁寧に進める技術を習得する。
8	71-80	クリエーションショー作品 縫製6	完成段階で仕上げアイロン、まとめ作業等仕上がりの完成度を上げる。
9	81-90	クリエーションショー作品 まとめ	完成段階で仕上げアイロン、まとめ作業等仕上がりの完成度を上げる。
10	91-100	クリエーションショー作品 コーディネート物 裁断	短時間制作を通して効率性を考えて作業を進めるスキルを身につける。
11	101-110	文化祭作品 裁断	アパレル展開に沿う制作を学ぶ。
12	111-120	文化祭作品 縫製1	アパレル展開に沿う制作を学ぶ。
13	121-130	文化祭作品 縫製2	アパレル展開に沿う制作を学ぶ。
14	131-140	文化祭作品 縫製3	アパレル展開に沿う制作を学ぶ。
15	141-150	まとめ	習得した内容の理解を深める。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-12	文化祭作品 縫製4	アバレル展開に沿う制作を学ぶ。
2	13-23	文化祭作品 縫製5 まとめ	アバレル展開に沿う制作を学ぶ。
3	24-35	ブランドプロデュース作品 裁断1	企業デザイナーとして効率的に設計し正確に実行できるスキルをつける。
4	36-47	ブランドプロデュース作品 裁断2	企業デザイナーとして効率的に設計し正確に実行できるスキルをつける。
5	48-59	ブランドプロデュース作品 素材加工1	企業デザイナーとして効率的に設計し正確に実行できるスキルをつける。
6	60-71	ブランドプロデュース作品 素材加工2	企業デザイナーとして効率的に設計し正確に実行できるスキルをつける。
7	72-83	クリエーションショー作品3 裁断 素材制作	オリジナル制作3作品目の応用力をつける。
8	84-95	クリエーションショー作品3 縫製1	クリエーション作品縫製スキルを修得する。
9	96-107	クリエーションショー作品3 縫製2	クリエーション作品縫製スキルを修得する。
10	108-119	クリエーションショー作品3 縫製3	クリエーション作品縫製スキルを修得する。
11	120-131	クリエーションショー作品3 縫製4	クリエーション作品縫製スキルを修得する。
12	132-143	クリエーションショー作品3 コーディネート物まとめ	コーディネート物の創作力を修得する。
13	144-155	クリエーションショー作品2 調整 まとめ1	納期を厳守しクオリティを上げる。
14	156-167	クリエーションショー作品1・2 調整 まとめ1	納期を厳守しクオリティを上げる。
15	168-180	クリエーションショー作品1・2 調整 まとめ2	納期を厳守しクオリティを上げる。
その他 (授業に際しての注意点)		日々の作業における周辺環境、準備物にも注力し回を重ねることに精度を上げる。企業デザイナーとしての加工出しを学ぶ。	

授業科目等の概要																					
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン専攻科 3年																				
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッション業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モディリスト）を目指す。																				
分類	必修	○	選択	配当年次	3年	学期	通年	○	前期	○	後期										
種別	流通・販売				授業方法	講義	△	演習	○	実習	△										
授業科目	市場調査Ⅲ				授業時間数	前期	15	後期	15	計	30										
担当教員	宇土 ユカ・鈴木 綾				職業実践専門課程：企業との連携				○												
※実務家教員	○	宇土：アパレルブランド企画職での実務経験及び日本ファッション教育振興協会パターンメーキング技術検定1級の基礎能力を基に、実用性の高い衣服制作上の基礎知識を伝授する。																			
資格検定																					
授業概要	企業デザイナー又は企画のプロデュース・プランニングを行うにあたり市場のニーズ、時代の推移を読み取る力を養う。又、ブランドプロデュースと連動し、ディティール研究、素材リサーチ、フォルム、カラーの展開を系統立ててまとめる力をつける。及び平面画を描く力もつける。																				
学習成果	① 市場から売れる服を見極める力を養う。 ② 市場からデザイン・仕様・カラー展開を調査する力をつける。 ③ デザインの発想力を養う。 ※ 市場を見ることにより感性を養う。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)				1	定期試験結果		%	2	提出物/期限遵守	90	%								
使用教材	●雑誌																				

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1 1-2	ハイブランド市場調査1（デザイナーズブランド）		クリエーション作品を制作するにあたり、ハイクオリティなデザイン・仕様・縫製を見ることにより、感性を養う。
2 3-4	ハイブランド市場調査2（デザイナーズブランド）		クリエーション作品を制作するにあたり、ハイクオリティなデザイン・仕様・縫製を見ることにより、感性を養う。
3 5-6	ハイブランド市場調査3（デザイナーズブランド）		クリエーション作品を制作するにあたり、ハイクオリティなデザイン・仕様・縫製を見ることにより、感性を養う。
4 7-8	ハイブランド市場調査4（デザイナーズブランド）		クリエーション作品を制作するにあたり、ハイクオリティなデザイン・仕様・縫製を見ることにより、感性を養う。
5 9-10	ブランドプロデュースで取り組む競合ブランドの調査1		市場で売れる服を把握する。競合ブランドの戦略も踏まえて調査する。
6 11-12	ブランドプロデュースで取り組む競合ブランドの調査2		市場で売れる服を把握する。競合ブランドの戦略も踏まえて調査する。
7 13-14	ブランドプロデュースで取り組む競合ブランドの調査3		市場で売れる服を把握する。競合ブランドの戦略も踏まえて調査する。
8 15	ブランドプロデュースで取り組む競合ブランドの調査4		市場で売れる服を把握する。競合ブランドの戦略も踏まえて調査する。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期 授業 計画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	ブランドプロデュースで取り組む競合ブランドの調査5	カラー-展開・アイテム展開を量的的にみる。自分のブランドの営業台帳を考える参考資料となる。また、市場の売れる立ち上がり商品をみて今後売れるものを見極める力を付ける。
2	3-4	ブランドプロデュースで取り組む競合ブランドの調査6	カラー-展開・アイテム展開を量的的にみる。自分のブランドの営業台帳を考える参考資料となる。また、市場の売れる立ち上がり商品をみて今後売れるものを見極める力を付ける。
3	5-6	ブランドプロデュースで取り組む競合ブランドの調査7	カラー-展開・アイテム展開を量的的にみる。自分のブランドの営業台帳を考える参考資料となる。また、市場の売れる立ち上がり商品をみて今後売れるものを見極める力を付ける。
4	7-8	ブランドプロデュースで取り組む競合ブランドの調査8	カラー-展開・アイテム展開を量的的にみる。自分のブランドの営業台帳を考える参考資料となる。また、市場の売れる立ち上がり商品をみて今後売れるものを見極める力を付ける。
5	9-10	ハイブランド市場調査5	社会人となることを踏まえ就職先で、どんな商品が売り出されているのか把握し商品のデザイン・パターン・仕様・経営の理解を深める。
6	11-12	ハイブランド市場調査6	社会人となることを踏まえ就職先で、どんな商品が売り出されているのか把握し商品のデザイン・パターン・仕様・経営の理解を深める。
7	13-14	ハイブランド市場調査7	社会人となることを踏まえ就職先で、どんな商品が売り出されているのか把握し商品のデザイン・パターン・仕様・経営の理解を深める。
8	15	ハイブランド市場調査8	社会人となることを踏まえ就職先で、どんな商品が売り出されているのか把握し商品のデザイン・パターン・仕様・経営の理解を深める。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		市場を見ることは極めて重要な授業内容である。ここで見てきたものから、制作物に生かしていく必要がある。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッショントレーニング専攻科		3年		
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では感性豊かな発想力、実行力を身につけ、次世代のファッショントレーニング業界のリーダー的存在となる、グローバルに活躍出来る人材を育成する。アパレル分野におけるクリエイターとしての感性、技術、提案力を習得し、アパレル企業の企画職（企画職、デザイナー、パターンナー、CADオペレーター、モデルリスト）を目指す。						
分 類	必修	<input type="radio"/>	選択	配当年次	3 年		
種 別	流通・販売		授業方法	講義	<input type="radio"/> 演習 <input type="radio"/> 実習		
授業科目	ウェブマーケティング I		授業時間数	前期 30	後期		
担当教員	中嶋 貴子		職業実践専門課程：企業との連携				
※実務家教員	<input type="radio"/>	ネットショップ実務士補の資格習得後、専門学校にて授業を担当。その他にEQ行動心理学講師として学校、企業 などで実績を積み、経営者の立場として激動の時代を生きる力を伝授します。					
資格検定	ネットショップ能力認定機構：ネットショップ検定実務士補				必修 <input type="radio"/> 選択		
授業概要	現在のビジネスにおいて、ネットビジネスは欠かせないものとなっている。店舗での対面販売とインターネットの販売・購入方法の違いを知ったうえで、ネットショップを運営するノウハウを学ぶ。また授業を履修する事でネットショップ検定実務士補の取得を目指す。						
学習成果	① ネットショップの知識や用語を理解する。 ② 特定商取引法を理解する。 ③ 売れるウェブサイトの運営方法を知る。 ※ 実際にベースを使用し、売れるサイトの運営方法を知る。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1 定期試験結果 2 提出物/期限遵守 3 独創性/習熟度 4 意欲・授業態度	% 90 % % 10 %		
使用教材	●KFDオリジナルプリント配布 ●KFDオリジナルデータ配布						

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	ネットショップ検定とは	今、元気な業界とは。成功例を挙げて知識を得る。
2	3-4	第1章・第2章 ソーシャルメディア・ソサエティ5.0 5Gでつながる世界 第3章・第4章・第5章 オムニチャンネル	ネットショップの知識や言葉を理解する。 独自ドメイン・オンラインモールなどの違いを知る。
3	5-6	第6章 商品取引・商品セキュリティについて	商品取引・商品セキュリティの知識を深める。
4	7-8	第8章 トップページの要素・キャッチコピーについて	キャッチコピーの例を見て自身に合ったキャッチコピーを考える。
5	9-10	第9章 特定商取引法に基づく表示・アクセシビリティ対策 第10章 問い合わせ対応・ブログ・アクセス解析について	特定商取引法の知識を深める。 Twitter、Instagram、Facebook、ブログの連携の大切さを学ぶ。
6	11-12	第18章・第19章・第20章 代金の回収等	ビジネスマナー、ビジネスメールの基礎知識。
7	13-14	新しいマーケットについて知る	NFT、メタバース等のヴァーチャルマーケティングについて。 顧客体験などを通じ新しいマーケットの可能性を探る。
8	15-16	プランディング	SEII3（専攻科3年がもつブランド）を他ブランドとの差別化を図る為にプランディングの手法について学び演習する。
9	17-18	実際にBASEを使用し、売れるサイトの運営方法を知る。他社のサイトをみて研究するとより深めることが出来る。	実際にペルソナを作成し、ターゲットを定めたウェブサイトを考える。
10	19-20	ネットショップを制作してみよう～準備編～企画書作成	ベースのアカウントを取得し、下準備をする。
11	21-22	ネットショップを制作してみよう1	実際にベースで売れるウェブサイトを立ち上げ、商品展開をしてみる。
12	23-24	ネットショップを制作してみよう2	実際にベースで売れるウェブサイトを立ち上げ、商品展開をしてみる。
13	25-26	検定対策	ネットショップ検定実務士権の認定取得を目指す。
14	27-28	確認テスト	作品提出。
15	29-30	検定試験・まとめ	ネットショップ実務士権の取得を目指す。
その他 (授業に際しての注意点)		実際にBASEを使用し、売れるサイトの運営方法を知る。他社のサイトをみて研究するとより深めることが出来る。	